

通達調機密合第六九七號

大正十三年八月三十日

外務次官 松平恒雄



別冊添附

大藏省理財局長 岡田清之助 殿

關東州租借地ニ於ケル自由港制度
調査送付ノ件

今般當省臨時調査部ニ於テ作成シタル「關東州租借地ニ於ケル自由
港制度調査」(條約改正調査報告書第三十一號)一部御參考迄別添
ノ通及送付候條御查收相成度此段申進候也

秘

關東州租借地ニ於ケル自由港制度調査

大正十三年七月
(條約改正調査報告書
第三十一號)

外務省臨時調査部

序 言

關東州租借地並ニ右租借地ニ實行セラレ居ル所ノ現自由港制度ノ性質ハ近時本邦ニ於テ漸ク朝野ノ注意ヲ惹クニ至リタル大連船籍問題、關東州生産物優遇問題等ニ付キ關係アルヲ以テ曩ニ丸田副領事ヲシテ右ニ關スル調査ヲ爲サシムル所アリシニ別冊報告ヲ提出スル所アリタリ依テ之ヲ一讀スルニ其ノ見解ノ如何ハ暫ク措キ執務上參考トナルヘキ點尠少ナラサルヲ以テ茲ニ副冊ニ付スルコトトセリ

大正十三年七月

外務省臨時調査部

關東州租借地ニ於ケル自由港制度調査

目次

關東州租借地ノ自由港

- 一、我國ノ繼承セル權利……………一
- 二、大連開放ノ經過……………三
- 三、自由港ノ性質……………六

附 録

- 一、大連税關ニ於ケル輸移出入貨物取扱一般……………一三
- 二、關係條約規定……………二一
 - (一) 日露講和條約……………二一
 - (二) 滿洲ニ關スル日清條約……………二四
 - (三) 南滿洲及東部內蒙古ニ關スル日支條約……………二四

關東州租借地ニ於ケル自由港制度調査

目次

關東州租借地ノ自由港

- 一、我國ノ繼承セル權利……………一
- 二、大連開放ノ經過……………三
- 三、自由港ノ性質……………六

附録

- 一、大連税關ニ於ケル輸移出入貨物取扱一般……………一三
- 二、關係條約規定……………二一
 - (一) 日露講和條約……………二一
 - (二) 滿洲ニ關スル日清條約……………二四
 - (三) 南滿洲及東部內蒙古ニ關スル日支條約……………二四

(四) 旅順、大連灣租借ニ關スル露清條約	二五
(五) 旅順、大連灣租借ニ關スル露清續約	二九
(六) 東清鐵道會社續約	三〇
(七) 大連海關設置及内水汽船航行ニ關スル日支協定	三三
(八) 支那ニ關スル日米交換公文	四八

關東州租借地ノ自由港制度

關東州租借地ノ自由港

關東州租借地ハ我國カ明治三十八年日露講和條約及同年北京條約ニ依リテ之ヲ露國ヨリ繼承シ次テ明治三十九年列國ニ對スル大連開放ノ宣言ニ依リ之ヲ自由港トシ明治四十年大連海關設置等ニ關スル清國總稅務司トノ協定ニ依リ自由區域其他輸出入ニ關スル支那稅關トノ關係ニ付詳細ヲ定メ斯クシテ大連港ハ該租借地全域ト共ニ自由地域トシテ以テ今日ニ至レリ

一、我國ノ繼承セル權利

我國カ露國ヨリ繼承セル權利ハ「ポーツマス」日露講和條約(明治三十八年九月五日調印)第五條ニアル通り關東州ニ於テ露國カ曩ニ清國ヨリ得タル租借權及之ニ關聯シ又ハ其一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與等ニシテ右ヲ具體的ニ謂ヘハ即チ曩ニ露清間ノ旅大租借ニ關スル條約(一八九八年三月十五日調印)第四條ニ謂フ如ク右租借地内ニ於ケル一切ノ陸海軍總指揮權、同地ノ最高民政權並ニ東清鐵道續約(一八九八年六月二十四日調印)第五條ニ謂フ租借地内ニ於テ租借

二
國自ラ税則ヲ制定シ得ルノ權利等トス而テ大連ノ港灣ニ付テハ旅大租借條約第六條ノ規定スル通
リ軍港ニ用ヒサル大連灣ノ殘餘ノ水域ハ之ヲ外國貿易ノ爲開放シ各國商船ノ自由出入ヲ許ス可ク
又租借地ト清國ノ徵稅權トノ關係ニ付テハ東清鐵道第五條ニ規定スル如ク支那政府ハ租借地境界
線ヲ經テナサル支那内地ヘノ輸入及支那内地ヨリノ輸出ノ貨物ニ對シ徵稅シ得ルモ、而テ右便
宜ノ爲大連埠頭ニ大那稅關ヲ設クルコトヲ得ルモ露國領土ト右租借地トノ間ノ出入貨物（即當時
東清鐵道ニ依ルモノ）ニ付テハ中途支那領土ヲ通過スルモ支那ノ關稅及釐金稅等ヲ徵收ス可カラ
サルモノトシテ租借地ヲ支那稅權ヨリ除外セリ

尙露國ハ一八九九年（明治三十三年）八月「ダニール」（大連）自由港設定ノ詔勅ヲ出シ從テ大連
港ト海上トノ貨物輸出入ニ付當時ヨリ何等關稅制度ヲ設クス故ニ大連ニ輸入ノ貨物ハ輸入稅ト沿
岸貿易稅トヲ問ハス總テ無稅ニシテ又支那海關ハ貨物ノ清國品タルト外國品タルトヲ問ハス支那
ノ一地方ヨリ大連ヘ再輸出セラルトキハ輸入稅及沿岸貿易稅ヲ拂戻シタル次第ニシテ右ノ如ク
大連ハ露國ノ國內的措置ノ結果自由港ナリキ

俄上露國ヨリ繼承ノ權利ハ「ポーツマス」條約第五條ノ規定ニ基キ我國ハ清國トノ間所謂北京條
約（滿洲ニ關スル日清條約、明治三十八年十二月二十二日調印）ニ依リ清國ノ承諾ヲ得タリ（同

條約第一條）但シ我國ハ右繼承ノ權利ニ關シテハ曩ノ「露清開締結ノ租借地並鐵道敷設ニ關スル
原條約ニ照シ努メテ遵行ス可キ」ヲ約セルニ付（北京條約第二條）我國ハ該租借地ノ施設等ニ關
シテ成ル可ク右露清間ノ條約ノ規定スル所ノ例ニ遵ヒテ爲スヲ要シ而テ將來何等案件ノ生セル場
合ハ隨時支那政府ト協議ス可キモノトセリ（同條約第二條）

尙同租借權ノ期限ニ付テハ露國ハ旅大租借ニ關スル露清條約ニヨリ其調印ノ日即一八九八年三月
十五日ヨリ向フ二十五ヶ年トシ右期間ハ兩國政府間相互ノ協定ニ依リ後ニ至リ更ニ延長シ得ルコ
トトセリ（旅大租借ニ關スル露清條約第三條）、而テ我國ハ其後支那政府トノ間南滿洲及東部内蒙
古ニ關スル條約（大正四年五月二十五日調印）ニ依リ設租借期限ヲ九十九ヶ年ニ延長セリ

一、大連開放ノ經過

日露講和條約ノ實施ニ依ル滿洲撤兵ノ進行ニ伴レ滿洲ノ各都市ハ遂テ逐次開放セララルコトトナ
リ（滿洲ニ關スル所謂北京條約ノ附屬協定第一條參照）而テ遂ニ滿洲ヲ外國貿易ノ爲開放ノ議内
外殊ニ英米ノ商人間ニ起リ又我國ニ於テモ大連ヲ以テ滿洲貿易ノ中心タラシム可シトノ方針ノ下
ニ且シ又滿洲ニ於テ各國民ニ對シ豫テ主張ノ門戶開放及商業上機會均等ノ主義ヲ維持實行ノ爲メ

滿洲各都市ノ開市ト共ニ近キ將來ニ大連ヲ各國通商ニ開放ノコトニ決シ明治三十九年四月列國ニ對シ右ノ旨取リ敢ヘス通告シ置ケリ

斯シテ我國ニ於テハ明治三十九年六月滿洲經營調査委員會ハ大連開放ノ件ニ關シ大體大藏省案ニ依リ左記ノ趣旨即大連ハ滿洲貿易ノ中心トナス可ク依テ該租借地ハ軍用上必要ノ制限外ハ純然タリ自由港トシ自由港主義ハ最大限度迄實行ス可ク大連ト本邦諸港トノ間ハ從來モ外國船舶ノ往來ヲ許セルニ付好意上當分ノ内右舊例ニ依ル可ク、本邦ト租借地間ノ貨物輸出入ハ本邦ニ於テハ全然輸出入ト見做シ、船舶ニ對シテモ同様手續ヲ爲サシムヘク、又本邦關稅ニ付テハ租借地生産物ニハ協定稅率ヲ適用ス可キコトヲ決議シ而テ政府ハ大體右委員會ノ決議ニ依リ其方針ヲ決定シ明治三十九年八月二十二日附ヲ以テ所謂大連開放ノ宣言即「帝國政府ハ三十九年九月一日ヲ以テ大連ヲ各國ノ通商ニ開放スルコトニ決定シ且ツ同港ヲ以テ自由港トシ同港ヲ經テ關東洲ヨリ輸出セラルル貨物並ニ同州ニ輸入セラルル貨物ニ對シ何等ノ輸出入稅ヲモ賦課セサルコトニ定メタリ尙帝國政府ハ同年九月一日以後外國商船ニ對シ大連ト帝國内開港間ヲ航海シ貿易ニ從事スルコトヲ差許スコトトセル」旨ヲ在京列國（英、米、佛、獨、澳、伊）使臣ニ通告スルト共ニ同趣旨ヲ在列國本邦使臣ニ電訓シテ駐劄國ニ通知セシメタリ

（註）關東州ニテハ我國ハ戰時中ヨリ貨物輸出入規則ヲ定メ支那製船舶ニ依リ大連其他ノ港灣ニ出入スル貨物ニ對シ山海關則例稅率表ニ定メタル輸出稅賦課シ來リタルモノ明治三十九年六月三十日ヲ以テ右テ廢止セリ

於茲我國ハ大連ヲ以テ關東州租借地全區域ト併セ自由港トナスコトナリ而テ明治四十年五月二十日調印ノ大連海關設置及内水汽船航行ニ關スル駐支林公使ト流國總稅務司「サー、ロバート、ハート」トノ協定ニ依リ一方大連埠頭ニ支那海關ヲ設ケテ租借地界線ヲ經ル支那内地トノ輸出入ニ對シ支那稅關ノ徵收ス可キ諸關稅ヲ便宜ノ爲メ大連埠頭ニ於テ徵收スルコトヲ得セシムルト共ニ大連及該租借地ノ自由地域ト支那關稅トノ關係ニ付詳細ヲ定メタリ

即右協定ニ依リ大連自由港ハ關東州租借地ノ全區域ヲ包括スル前提ノ下ニ支那稅關ノ取扱方ニ關シテハ大連ニ輸入シ租借地ニ於テ消費セラルル内外品ハ總テ無稅トシ、又大連ヨリ輸出セラルル外國品（支那内地ヨリ來ラサルモノ）及租借地内ノ生産品、製造品亦總テ無稅トス可ク但シ支那稅關ハ租借地ヲ經テ支那内地ニ輸送セラルル外國品ニ其輸入稅ヲ徵收シ支那内地ヨリ租借地ヲ經テ輸出セラルル貨物ニ其輸出稅ヲ徵收シ又支那内地ヨリ大連ヲ經テ支那内地ニ輸入スル支那品ニ沿岸貿易稅ヲ徵收スヘキモノトセリ、（該協定文參照）

但シ右協定ハ其前文ニ掲クル通り大連支那海關ノ一般指導ノ爲メニスル豫備及暫定ノ處置トシテ

ノ取極ニ外ナラス左レハ我關東州租借地ニ於ケル商業ノ發達ニ伴レ現ニ豫知ス可カラサル必要ノ生スルトキハ右協定ノ修正ヲ提議シ得可キモノトセリ(同協定十八)

六

三、自由港ノ性質

以上ニ依リ關東州ニ於テ我國ノ繼承セル權利並關東州自由港開放ノ經過ヲ概説セリ依テ以下自由港ノ性質ニ付述フ可シ

元來租借地ナルモノカ國際法上一國ノ領土ト同一ナルヤ否ヤニ付テハ議論アルモ租借地ニ於テ租借國ハ其領土ニ對スルト同一ノ主權行使ヲナシ得ルコトニ付テハ何等ノ異論ナシ而テ我國ハ關東州租借地ニ於テハ前述ノ通り露清條約、東清鐵道續約、日露講和條約及日清北京條約等ニ基キ同地ニ於ケル一切ノ軍指揮權、最高民政權及稅則制定權ヲ有スルモノニ付支那ノ主權行使ハ停止セラレ從テ我國ハ其領土ニ對スルト右ノ關係ニ於テ同一ノ主權ヲ行使シ得ルモノナルハ明ナリ

但シ我國ハ租借國トシテ既述日清北京條約ニ依リ同地ニ對スル施設等ニ付露清間ノ租借條約並ニ鐵道敷設ニ關スル條約ノ定ムル所ニ照ラシテ之ニ遵由シテ行フヲ要ス、然レトモ右ハ「努メテ」即可成的遵由スルノ義務アルニ過キス且ツ又將來何等必等ノ生セルトキハ隨時支那政府ト協議シ

得可キコトトナリ居ルニ付租借地ニ於ケル上述我國ノ權力行使ニ付原條約ニ遵由スルノ義務ハ緩ナルモノトス

大連ニ付テハ前述ノ通露清間ノ原條約ニ依レハ通商港トシテ各國船舶ニ開放シ其自由出入ヲ許ス可キ可成的ノ義務ヲ我國ハ負フモノトス然レトモ右ハ通商港トシテ開港スルノ意味ニシテ之ヲ自由港トナナス可キ何等條約上ノ義務ヲ我國ハ何國ニ對シテモ負フモノニアラス、露國租借時代ニ同港並ニ其租借地カ自由地域ナリシハ單ニ其國內的措置ニ依リ露國カ同地ニ關稅制度ヲ設定セザリシニ依ルモノニシテ右ハ露清間何等ノ條約ニ依リ定メラレタルモノニアラサルニ付該原條約ニ遵行スル義務アル我國トシテハ斯ノ如キ國內的措置即チ國際法上ヨリハ單ニ「事實」ニ過キサルモノノ結果ニ付之レニ遵由スルヲ要スルモノニアラス

我國カ大連ヲ自由港トセルハ既述滿洲經營調查委員會ノ決議ニモアル通り一ツニ大連及該租借地ノ産業並商業上ノ發展ヲ計ランカ爲メニセル我國ノ自發的方策ニ由ルモノニシテ而テ右ハ固ヨリ其結果ニ於テ滿洲門戶開放、機會均等ノ傳來政策ニモ合致スル所ナルニ付前述ノ如ク明治二十九年八月ノ大連開放ノ宣言ヲナセルモノニ外ナラス、又自由區域ヲ關東州ノ全域ニ迄及ホシタルモ亦右方策ノ理由ニ依リシニ外ナラスシテ何等遵由スルヲ要スル條約上其他ノ前例ニ依リ斯クセル

七

大連海關設置ニ關スル明治四十年ノ日支協定ハ一見之レニ依リ大連自由港ノ自由區域ノ範圍ヲモ同時ニ定メタル如ク見ルモノモアラシクモ而テ右協約ノ商議ノ際自由區域ノ範圍如何ノ問題議セラレタル次第ナルモ夫ハ膠州灣ノ舊獨逸租借地ニ於ケル獨逸清問青島海關ニ關スル舊協定(一八九九年四月十七日調印)ノ主義ニ依リ租借地ヲ當然トシテ其全域ヲ自由區域トスルヤ又ハ該修正協定(一九〇五年十二月一日調印)ノ主義ニ依リ自由區域ヲ縮少シ租借地ノ殘部ニ對シ支那稅關ノ徵稅權ヲ認ムル代リ支那海關輸入稅收入ノ二分ヲ其代價トシテ支那側ヨリ受クルコトトスルヤ否ヤノ議論アシニ外ナラス然レトモ我國ハ獨清ノ右修正協定ノ主義ハ密輸入防止等ノ爲メニスル單ナル便宜措置ニ外ナラサルノミナラス膠州灣租借地カ獨逸本國ヲ離ルコト遠ク且ツ其租借地域モ五十哩ノ大ナル背後ヲ有スルニ反シ我カ關東州租借地ハ其面積前者ニ比シ遙ニ狹少ニシテ且ツ我國ト地理的ニ近接シ我國トノ製工業上ノ關係緊密ナルニ鑑ミ尙又他日、本邦内地關稅政策上何等起ルヘキ要求ニモ適應セシメンカ爲メニ獨清間ノ修正協定ノ自由區域縮少ノ主義ヲ排シテ其舊協定ノ主義ヲ採用スルコトトシ我國カ曩ニ宣言セル如ク該租借地全域ヲ自由區域トスル前提ノ下ニ該協定ヲ定ムルコトトセル次第ナリ而テ右ハ至極當然ノ措置ニシテ蓋シ租借地ニ被租借國ノ稅權ヲ入

ルルコトハ租借國ノ租借地ニ對スル主權行使ニ對スル侵害タルハ理論上明白ナルハ勿論租借國ノ同地ニ對スル政策上場合ニ依リ障礙ヲナスコト少カラサレハナリ

之ヲ要スル大連海關協定ハ大連ヲ自由港トスルヤ否ヤ若ハ自由區域ヲ如何ニスルカヲ定メタルモノニアラスシテ如斯我國租借地ノ自由地域ノ存在スル場合ニ其ノ租借境界線ヲ經テ支那内地其他ニ輸出入セラルルモノニ對シ支那稅關ヲシテ如何ニシテ其關稅ヲ便利ニ徵收セシメ得ルヤニ付便宜の規定ヲ定メタルモノニ外ナラス左レハ關東州自由港ナルモノハ右協定ニ引懸リ居ルモノニアラスシテ自由港タルハ單ニ既述我國ノ大連開放宣言ニ依リテ然ルノミ故ニ今假リニ右宣言ヲ撤廢シテ該自由港ヲ廢止スルトスルモ支那トノ間何等右協定違反トナルモノニアラスシテ只如斯狀況ニ適應スル如ク同協定ノ條項ヲ支那側トノ協議ニ依リ修正セハ足ルモノニシテ而シテ右修正提議ヲナシ得ヘキコトハ同協定中ニ明記スル所ナリ加之右協定ハ大連ニ於ケル内水汽船航行ニ關シ支那稅關ノ取扱ヲ當時同時ニ定メタル協定ト共ニ豫備暫定ノ取極ナルニ付之ヲ更ニ別ノ新協定ヲ以テ代フルコトモ亦支那側ト商議シ得ル所ナリトス

又現在大連ト本邦諸港間ハ外國船舶ノ貨物運送ヲ許シ居ル處之レ亦何等露清間原條約等ニ基クモノニアラスシテ單ニ明治三十九年ノ大連開放ノ宣言ニ依リ我國カ當時ノ事實上ノ情況ヲ引續キ認

メテ外同船舶ニモ特ニ其往來ヲ許スコトトセルニ依ルニ外ナラサルニ付右宣言ヲ撤廢シテ之ヲ禁止スルコト固ヨリ支障ナシ蓋シ本邦ト其植民地ニシテ本邦ニ近接セル關東州租借地トノ間ハ所謂沿岸貿易ニ外ナラサルニ付其往來ヲ外國船舶ニ許セルハ好意ニ依リシモノニ過キサレハナリ而テ之ニ關シテハ支那側トモ何等協定等ナキニ付自由港廢止ノ場合ニ於ケルカ如キ支那側トノ商議ノ問題ナシ

尙支那ニ於ケル所謂門戶開放機會均等ノ主義ハ自由港問題ト全然別個ノモノニシテ右ニ關スル例ハ日米間大正六年ノ交換公文ノ如キモ日本ハ特殊利益ヲ有スル支那ニ於テ他國ノ通商ニ不利偏頗ノ待遇ヲナシ又ハ條約上他國カ支那ニ於テ有スル權利ヲ無視セス且ツ日米兩國ハ支那ノ門戶開放又ハ商工業ノ機會均等ノ主義ヲ共ニ支持ス可キヲ記セル處右ハ日米兩國ノ支那ニ於ケル一般的政策方針ヲ謂フモノニシテ條約上我國カ支那ニ對シ有スル租借權並ニ租借地ニ於ケル我國ノ權利ニ觸レ得可キ次第ニアラサルニ付前記ノ如キ我國ノ大連開放宣言ノ撤廢、其他支那側トノ必要ナル商議ニ付何等支障トナルコトナシ而テ夫ハ日露講和條約第七條ニ日露兩國ハ滿洲ニ於ケル鐵道ヲ以テ軍略ノ目的ヲ以テ經營ス可カラシテ商工業ノ目的ノミニ經營ス可キコトトセルニ一方關東州租借地ニ於ケル鐵道ニ付テハ右ヲ適用セスト規定セルヨリ見ルモ關東州ハ他ノ支那特殊ニ滿洲一

般ノ地方ト異ナリ商工業上ノ所謂門戶開放、機會均等ノ主義ノ範圍外ナリトセラレ居ルコト明ナリトス

左レハ我國ハ例ヘハ關東州ノ自由港ヲ廢止シ我國カ租借地ニ於テ有スル稅權ニ基キ同地ニ特別ノ關稅制度ヲ設置スルコトモ或ハ更ニ進ミ同地ヲ内地ト同一關稅區域ニ入ルルコトモ何等條約其他ニ抵觸スル所ナシト謂ハサル可カラス

而テ現在ノ同地ノ制度ノ下ニ於テ例ヘハ同地ヨリ同地生産、製造ノ物品ヲ本邦ニ輸入スルニ當リ我國ニ於テ關稅上特別ノ待遇ヲ爲シ得ルヤノ問題ハ關東州ニ於テ我國カ其關稅制度ヲ設ケ得可シトノ理論ニ依ルト云フヨリモ寧ロ同地ハ我國ノ租借地トシテ前述ノ如ク機會均等主義ノ範圍外ナルニ付我國ハ同地ニ對シ特別ノ措置ヲ採リ得可キコト及同地ハ前述ノ通り支那ノ稅權ノ範圍外ナルニ付關東州全域ニ互リテナス右何等ノ待遇ハ支那ニ對スルモノニ非ルコトノ理由ニ依リ容易ニ肯定シ得可シ而テ此ノ場合ニ於テハ我國ノ前述明治三十九年ノ宣言並ニ明治四十年支那側トノ大連海關設置等ニ關スル協定ト何等關係スル所ナシ

附録一、大連税關ニ於ケル輸移出入貨物取扱一般

外務省通商局調査 (大正七年十一月十一日發行)
通商公報第二三卷第五六九號(參照)

大連税關ニ於ケル輸移出入貨物ニ關シテハ明治四十年五月三十日、日支間調印ノ大連海關設置並
内水汽船航行ニ關スル協定(明治四十年六月十一日外務省告示第十三號)及明治四十年六月二十
六日關東都督府令第三十八號、關東州租借地稅關假規則適用セラル、以下外國品、支那品、租借地
生産物及其製品、外國並支那産原料ヲ以テセル製造品ノ輸移出入セラルル場合ニ課稅上如何ナル
取扱ヲ受クルヤニ關シ以下(一)海路輸入、(二)海路輸入ノ外國品ヲ支那内地へ移出、(三)海
路輸入支那條約港へ移出、(四)海路輸入外國品ノ再輸出、(五)支那條約港經由移入、外國へ輸
出、(六)支那條約港經由移入、他ノ條約港へ移出、(七)支那條約港經由移入、支那内地へ移出
(八)陸路支那内地ヨリ移入ノ支那品ヲ外國へ輸出、(九)陸路支那内地ヨリ移入ノ支那品ヲ他ノ
支那條約港へ移出、(十)陸路支那内地ヨリ移入ノ支那品ヲ支那内地へ移出、(十一)租借地生産
物若クハ其製造品ヲ外國へ輸出、(十二)同上支那條約港へ移出、(十三)同上支那内地へ移出、
(十四)租借地内ニ於テ消費セラルル場合ニ分チ之ヲ示セハ左ノ如シ

(一) 海路輸入

(イ) 外國品

(ロ) 支那品

(二) 海路輸入ノ外國品ヲ支那内地へ移出

當該輸入外國產原料ニ加工ノ上支那内地へ移出

(三) 海路輸入他ノ支那條約港へ移出

(イ) 外國品

當該輸入外國產原料ニ加工ノ上

他ノ支那條約港へ移出

(四) 海路輸入外國品ノ再輸出

當該輸入外國產原料ニ加工ノ上再輸出

輸入税ヲ要セス

同

輸入税ヲ賦課セラル

同

輸出税ヲ要セス

到達條約港ニ於テ輸入税ヲ賦課セラル

同

但シ民政署ノ產地證明書ヲ有スルモノニ限ル

輸入税ヲ要セス

同

但シ民政署ノ產地證明書ヲ有スルモノニ限ル

(五) 支那條約港經由移入、外國へ輸出

(イ) 外國品

當該移入外國產原料ニ加工ノ上外國へ輸出

輸出税ヲ要セス

當該支那條約港ニ於テ納付セル輸入税ハ拂戻ヲ受ク

同

但シ民政署ノ產地證明書ヲ有スルモノニ限ル

製品ニ對スル輸出税ヲ要セス

但シ當該條約港ニ於テ輸出税納付済ノモノニ限ル

(ロ) 支那品

當該移入支那產原料ニ加工ノ上外國へ輸出

輸出税ヲ賦課セラル

蓋シ輸出者ノ選擇ニヨリ材料若クハ製品ニ對スル輸

出税ヲ賦課スル規定ナルモ現在ハ製品ニ對スル輸出

税ヲ賦課シツツアリ

(六) 支那條約港經由移入、他ノ條約港へ移出

(イ) 外國品

輸出税ヲ要セス

一六

當該條約港ニ於テ納付セル輸入税ハ拂戻ヲ受ケ到達
條約港ニ於テ輸入税ヲ賦課セラル

當該移入外國產原料ニ加工ノ上他ノ條約港へ移出

輸出税ヲ要セス

但シ民政署ノ產地證明書アルモノニ限ル

(ロ) 支那品

當該條約港ニ於テ納税済證ヲ有セサルモノハ輸入税

金ニ相當スル金額ヲ税關ニ供託スルヲ要ス

而シテ到達條約港ニ於テ沿岸貿易税ヲ賦課セラル

當該移入支那產原料ニ加工ノ上他ノ條約港へ移出

無税ノ取扱ヲナシツツアリ

(七) 支那條約港經由移入、支那内地ニ移出

(イ) 外國品

輸入税ヲ賦課セラル

當該條約港ニ於テ輸入税納付ノ證明ヲ有セサル場合

ナリ

當該移入外國產原料ニ加工ノ上支那内地へ移出

輸入税ヲ賦課セラル

沿岸貿易税ヲ賦課セラル

但シ當該條約港ニ於ケル納税済證ヲ有スルモノニ限

ル

(ロ) 支那品

當該移入支那產原料ニ加工ノ上支那内地へ移出

輸入税ヲ要セス

但シ最初原料到着ノ際税關ノ承認ヲ經タルモノニ限

ル

(八) 陸路支那内地ヨリ移入ノ支那品ヲ外國へ輸出

輸出税ヲ賦課セラル

但シ内地ヨリ租借地ニ入ル場合ハ無税

當該移入支那產原料ニ加工ノ上外國へ輸出

一七

(九) 陸路支那内地ヨリ移入ノ支那品ヲ他ノ支那條約港ヘ移出

當該移入支那産原料ニ加工ノ上他ノ支那條約港ヘ移出

製品ニ對スル輸出税ヲ賦課セラル
輸出者ノ選擇ニヨリ材料若クハ製品ニ對スル輸出税
ヲ課スル規定ナルモ現在ハ製品ニ輸出税ヲ賦課シツ
ツアリ

輸出税ヲ賦課セラル

但シ内地ヨリ租借地ニ入ル場合ハ無税

輸出者ノ選擇ニ從ヒ原料若クハ製品ノ孰カニ對シ輸
出税ヲ課スル規定ナルモ現在ハ製品ニ對シ課税シツ
ツアリ

(十) 陸路支那内地ヨリ移入ノ支那品ヲ支那内地ヘ移出

無税

但シ積戻品タル證明ヲ有スル場合ニ限ル然ラサレハ

輸入税ヲ賦課セラル

輸入税ヲ賦課セラルル場合ハ通過税ニ關スル規定ノ
適用アリ而シテ最初内地ヨリ租借地ニ入ル場合ハ無
税

當該移入支那産原料ニ加工ノ上支那内地ヘ移出

輸入税ヲ要セス

但シ最初原料カ内地ヨリ到達ノ場合税關ノ承認ヲ經
タルモノニ限ル然ラサレハ輸入税ヲ賦課セラル
而シテ輸入税ヲ課セラルル場合ハ通過税ニ關スル規
定ノ適用アリ

(十一) 租借地生産物若クハ其製造品ヲ外國ヘ輸出

輸出税ヲ要セス

(十二) 租借地生産物若クハ其製造品ヲ支那條約港ヘ移出

輸出税ヲ要セス

但シ民政署ノ產地證明書ヲ有スルモノニ限ル而シテ
到達條約港ニ於テハ輸入税ヲ賦課セラル

(十三) 租借地生産物若クハ其製造品ヲ支那内地へ移出

輸入税ヲ賦課セラル

(十四) 租借地内ニ於テ消費セラルル場合

外國品、支那品共ニ租借地内ニ止マリ又ハ消費セラ
ルル間ハ何等ノ納税ヲ要セス

支那條約港ヲ經由移入外國品カ租借地内ニ於テ消費
セラルル場合仕出港税關發行ノ納税済證ヲ有スルモ
ノハ納税地ノ税關ニ請求シ税金ノ拂戻ヲ受クルコト
ヲ得

附録二、關係條約規定

日露講和條約

明治三十八年九月五日米國「ボーツマス」ニ於テ調印(佛、英文)
同 年 十一月二十五日批准書交換

第五條

露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以テ旅順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借
權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス露西亞
帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ日本帝國政
府ニ移轉讓渡ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國民ノ財産權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

第七條

日本國及露西亞國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道ヲ全ク商業ノ目的ニ限リ經營シ決シテ軍略ノ目的

ヲ以テ之ヲ經營セサルコトヲ約ス

該制限ハ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル鐵道ニ適用セサルモノト知ルヘシ

111

TREATY OF PEACE BETWEEN JAPAN AND RUSSIA.

Signed at Portsmouth, in French and English, September 5, 1905 (38th year of Meiji.)
Ratifications exchanged at Washington, November 25, 1905.

Article V.

The Imperial Russian Government transfer and assign to the Imperial Government of Japan, with the consent of the Government of China, the lease of Port Arthur, Talien and adjacent territory and territorial waters and all rights, privileges and concessions connected with or forming part of such lease and they also transfer and assign to the Imperial Government of Japan all public works and properties in the territory affected by the above mentioned lease.

The two High Contracting Parties mutually engage to obtain the consent of the Chinese Government mentioned in the foregoing stipulation.

The Imperial Government of Japan on their part undertake that the proprietary rights of Russian subjects in the territory above referred to shall be perfectly respected.

Article VII.

Japan and Russia engage to exploit their respective railways in Manchuria exclusively for commercial and industrial purposes and in no wise for strategic purposes.

It is understood that that restriction does not apply to the railway in the territory affected by the lease of the Liao-tung Peninsula.

112

二 滿洲ニ關スル日清條約

二四

明治三十八年十二月二十三日、北京ニ於テ調印(日、支文)
同 年 同 月二十三日批准書交換

清國政府ハ露國カ日露講和條約第五條及第六條ニヨリ日本國ニ對シテ爲シタル一切ノ讓渡ヲ承諾ス

第二條

日本國政府ハ清露兩國間ニ締結セラレタル租借地並鐵道敷設ニ關スル原條約ニ照シ努メテ遵行スヘキコトヲ承諾ス將來何等案件ノ生シタル場合ニハ隨時清國政府ト協議ノ上之ヲ定ムヘシ

三、南滿洲及東部內蒙古ニ關スル日支條約

大正四年五月二十五日北京ニ於テ調印(日、支文)
同 年 同月八日批准書交換

第一條 兩締約國ハ旅順大連ノ租借期限並南滿洲鐵道及安奉鐵道ニ關スル期限ヲ何レモ九十九商

年ニ延長スヘキコトヲ約ス

四、旅順、大連灣租借ニ關スル露清條約 (譯文)

千八百九十八年三月十五日北京ニ於テ調印(露、支文)

(前文省略)

第一條

清國皇帝陛下ハ露國海軍ヲシテ北清ノ沿岸ニ於テ充分恃ムニ足ルヘキ根據地ヲ得セシムルノ目的ヲ以テ旅順口及大連灣兩港ヲ該港ニ連接セル水域ト共ニ露國政府ノ租借的使用ニ供スルニトヲ承諾ス

但シ此租借ニヨリ前記領土ニ對スル清國皇帝陛下ノ主權ハ河等侵害セララルコトナキモノトス

第二條

前記ノ理由ニ據リ租借の使用ニ供セラルヘキ地區ノ境界ハ大連灣ヨリ北ニ向ヒ該地域ヲ陸上ヨリ充分ニ防禦スルニ必要ナル距離ニ到達スヘキモノトス

本協約ノ條款ニ關聯セル正確ナル境界線及其他詳細ナル事項ハ本協約調印後直ニ聖彼得堡ニ於テ

二六
欽差全權大臣許景澄トノ間ニ締結セラルヘキ別個議定書ニ於テ規定スヘシ該境界線劃定後ハ其ノ
査定ニ係ル租借領土ノ全地面ハ該地面ニ連接セル水域ト共ニ露國政府ノ完全且排他的使用ニ供セ
ラルルモノトス

第三條

租借期限ハ本協定調印ノ日ヨリ二十五ヶ年ト定ム而シテ後ニ至リ兩國政府間相互ノ協定ニヨリ之
ヲ延長スルコトヲ得

第四條

前記期限内ハ露國政府ニ於テ租借セル領土及之ニ接續セル水域ニ於ケル陸海軍總指揮權及最高民
政權ハ全部露國官憲ニ屬シ且一人ノ手ニ集中セラルヘシ然レトモ之ニ知事又ハ總督ノ名稱ヲ附ス
ルコトヲ得ヌ如何ナル清國陸軍ノ軍隊ト雖モ該領土ニ入ルコトヲ得ヌ清國住民ハ其ノ希望ニヨリ
露國ノ租借セル領土ノ領域ヨリ立退クコトヲ得ヘシ又露國官憲ニヨリ妨碍ヲ受クルコトナクシテ
該領域ニ留マルコトヲ得ヘシ租借領土内ニ於テ清國臣民カ罪ヲ犯シタル場合ニハ千八百六十年ノ
北京條約第八條ニヨリ清國法律ニ照シ裁判並處罪ノ爲犯人ヲ最近ノ清國官憲ニ引渡スヘキモノト
ス

第五條

前記租借地境界ノ北方ニ中立地帯ヲ設ク該地帯ノ境界ハ聖彼得堡ニ於テ外務省ト許大臣トノ間ニ
制定セラルヘシ右中立地帯ノ領域ニ於ケル民政權ハ全部清國官憲ノ手ニアルヘキモ清國軍隊ハ單
ニ露國官憲ト商議ノ上ニテ該地帯ニ入ルヲ許サルルモノトス

第六條

兩國政府ハ旅順口カ全然軍港トシテ單ニ露清兩國船艦ノ使用ニ供セラルヘキコトニ同意ス
右兩國以外ノ國ノ軍艦及商船ニ對シテハ同港ハ閉鎖セラルヘシ大連灣ニ關シテハ内灣中旅順口ト
同シク特ニ露清兩國艦隊用ニ充テラレタル一灣ヲ除キ同港殘餘ノ水域ハ外國貿易ノ爲ニ開放セラ
レ各國商船ニ對シ該水域ノ自由出入ヲ許スヘシ

第七條

露國政府ハ租借の使用ノ爲讓渡ヲ受ケタル地面殊ニ旅順口及大連灣兩港ニ於テ自己ノ負擔ニ依リ
且自己ノ資力ヲ以テ艦隊及陸軍軍隊ノ爲ニ必要ナル總テノ施設ヲナシ要塞ヲ築キ之ニ守備兵ヲ置
ク等凡ソ敵ノ襲撃ニ對スル同地方ノ有效ナル防禦上必要ナル諸般ノ手段ヲ講スヘキモノトス尙露
國政府ハ自己ノ負擔ニ依リ燈臺及其ノ他航海ノ安全ニ必要ナル豫防的目標ヲ設置シ且之ヲ維持ス

ヘキ義務ヲ負フ

第八條

清國政府ハ千八百九十六年東清鐵道會社ニ 與シタル特許權ヲ本協約調印ノ日ヨリ擴張シテ今後 同鐵道幹線ノ一驛ヨリ大連灣マテ竝必要ノ場合ニ於テハ該幹線ヨリ營口市及鴨綠江口間ニ於ケル 遼東半島ノ沿岸ニ於ケル一層便利ナル地點マテ布設セラルヘキ聯絡技線ニ及ホスコトニ同意ス該 追加技線ニ對シテハ千八百九十六年八月二十七日清國政府ト露清銀行トノ間ニ締結セラレタル契 約ノ總テノ條項ヲ正確ニ適用スヘキモノトス前記技線ノ通過スヘキ方向及地點ハ許大臣ト東清鐵 道會社トノ間ニ協定セラルヘシ前述ノ基礎ニヨル鐵道布設ノ承認ハ如何ナル場合ニ於テモ又如何 ナル名目ニ於テモ清國領土ノ獲得又ハ清國主權侵害ノ口實トナルヘカラス

第九條

本協約ハ兩國全權委員カ本書ヲ交換シタル日ヨリ法律上ノ效力ヲ有スヘシ批准交換ハ可成速ニ聖 彼得堡ニ於テ之ヲ行フヘシ 右證據トシテ雙方全權委員ハ露語及清語ヲ以テ認メタル本協約ニ通ニ署名捺印スルモノナリ兩正 本ハ對照ノ上一致セルコト判明セルカ本協約ノ解釋上ニ際シテ露語ノ正本ヲ以テ正確ナルモノト

千八百九十八年三月十五日清曆光緒二十四年三月六日北京ニ於テ本書ニ通ヲ作ル

ア、パウロフ 署 名 捺 印
鴻章及張蔭桓 署 名 捺 印

五、旅順大連灣租借ニ關スル露清續約 (譯文)

(千八百九十八年四月二十五日聖彼得堡ニ於テ調印(露、支文))

第一條

千八百九十八年三月十五日ノ協約第二條ニヨリ遼東半島ニ於テ旅順口及大連灣兩港ト共ニ露國政 府ノ使用ニ供セラレタル地區ノ北方境界ハ遼東西岸ニ於ケル「アダムス」灣ノ北部ニ起リ「アダム ス」尖山ヲ經テ(尖山モ露領ニ含ム)遼東東岸ニ在ル小村皮子窩附近ニアル灣ノ北端ニ到リ又租 借地區ニ接續セル全水域ハ大陸ヲ圍繞セル總テノ島嶼ト共ニ露國ノ使用ニ供セララル兩國政府ハ現 場ニ就キ租借領土ノ境界線ヲ一層正確ニ劃定センカ爲特別委員ヲ任命スヘシ

六、東清鐵道會社續約 (譯文)

三〇

(露曆一八九八年六月二十四日聖彼得堡ニ於テ調印)

第五條

露國ハ遼東半島租借地内ニ於テ自ラ税則ヲ規定スルヲ得ヘク清國ハ境界線上ニ於テ貨物ノ租借地ヨリ輸入シ若ハ該租借地ニ輸出スルモノニ對シ收税スヘシ此ノ件ニ付清國政府ハ露國政府ト商議ノ上大連灣ニ於テ其開港通商後税關ヲ設置スルコトヲ允シ其開設及管理ニ關シテハ東省鐵道路路公同ニ委任シテ清國政府ノ戶部代理者トナシ收税事務ヲ代掌セシム但シ該税關ハ北京政府ノ直轄トナシ右代理者ハ期ヲ定メテ其事務ノ情況ヲ報告スヘク清國政府ハ別ニ文官ヲ派遣シ該税關駐紮ノ委員トナスヘシ凡ソ乗客ノ手荷物及貨物ニシテ露境内ノ停車場ヨリ東清鐵道線路ニ依リ遼東半島ノ露國租借地域内ニ輸送シ或ハ該租借地ヨリ露國境内ニ輸送スルモノハ一切其關稅及釐金稅ヲ免除スヘキモ鐵道ニ依リ清國內地ヨリ租借地内ニ輸入シ若ハ租借地ヨリ内地ニ輸入スル貨物ハ必ス清國關稅則ニ照ラシ輸出入稅ヲ完納スヘキモノトス

CONTRAT POUR LA CONSTRUCTION ET L'EXPLOITATION DE L'EMBRANCHEMENT SUD-MANCHOU DU CHEMIN DE FER CHINOIS DE L'EST.

(Signé à St-Petersbourg, le 24 juin 1898)

Article V.

Le Gouvernement Russe ayant la faculté d'établir tels tarifs douaniers qu'il lui conviendra pour la partie de la presqu'île de Liao-Tong qui lui est cédée en usufruit, le Gouvernement Chinois, de son côté, pourra percevoir des droits à sa frontière sur les marchandises venant de la partie susmentionnée de la presqu'île ou s'y dirigeant. A cet effet, le Gouvernement Impérial de Chine pourra, si la Russie y consent, établir un bureau de douane à Taitienwan, le jour où ce port sera ouvert au commerce. Si ce bureau est établi, l'organisation et la direction en seront confiées à l'Administration du chemin de fer Chinois de l'Est, qui percevra les droits comme agent et au profit du Trésor Chinois. Le bureau relèvera directement du Gouvernement central de Péking, auquel il rendra périodiquement compte de sa gestion. Le Gouvernement Impérial Chinois pourra nommer un fonctionnaire civil, de nationalité chinoise, qui résidera sur place en qualité d'agent impérial près ladite douane. Les bagages des voyageurs ainsi que les marchandises expédiées en transit par cet embranchement d'une des stations-frontières russes dans la partie de la presqu'île de Liao-Tong cédée en usufruit à la Russie, et vice-versa, ne seront pas soumis

III
aux droits de douane, de même, ils seront exempts de tout impôt et droit intérieur. Les marchandises, qui, du territoire cédé en usufruit à la Russie, seront importées par chemin de fer dans l'intérieur de la Chine, comme aussi celles qui, par la même voie, seront exportées de l'intérieur de la Chine dans ledit territoire, acquitteront respectivement les droits d'importation ou d'exportation de la douane maritime chinoise, sans réduction ni majoration.

七、大連海關設置及内水汽船航行ニ關スル日支協定

(明治四十年五月三十日北京ニ於テ調印)
同 年 六月十一日 告 示

日本國及清國政府ハ大連ニ清國海關ヲ設置スルコトヲ協定シタルヲ以テ下名ハ各本國政府ヨリ相當ノ委任ヲ受ケ茲ニ同海關ノ一般指導ノ爲メ豫備及暫定ノ處置トシテ本書ニ添附スル左記ノ文書ニ開陳セル細項取極ヲ承認スルコトヲ約ス

- (甲) 大連海關設置ニ關スル協定
- (乙) 内水汽船航行ニ關スル協定

本取極ハ一季間試ニ之ヲ實施シタル上明春ニ至リ更ニ善ク土地ノ狀況及必要ニ應セシムル爲再考ヲ加ヘ茲ニ承認スル文書ニ代フルニ修正取極及命令ヲ以テスヘキコトヲ約ス該修正取極ハ日本公使ト總稅務司トニ於テ之ヲ作成シ命令ハ租借地ノ日本國官憲ニ於テ大連海關長ト協議シ之ヲ作成スヘキモノトス又日本國官憲ハ租借地ヨリ清國ヘノ密輸入ヲ防遏スル處置ヲ採リ且清國官憲カ清國ヨリ租地ニ密輸入ヲ防ク爲ニ採ル所ノ處置ニ就キ之ヲ援助スヘク又大連ノ鐵道終點及境界地停車場(瓦房店又ハ其ノ他)ニ於ケル鐵道運輸ヲ處理スル爲相當手續ヲ定メ該海關ノ徵稅ノ爲假規

則ヲ設クヘキモノトス

三四

日本國特命全權公使 林 權 助
清國總稅務司 サ、ロバート、ハート

千九百七年五月三十日北京ニ於テ署名調印ス

(甲) 大連海關設置ニ關スル協定

- (一) 大連海關長ハ日本ノ國籍ヲ有スル者タルヘシ該海關長新任ノ場合ニハ總稅務司ハ在北京日本國公使館ト協商ヲ遂クヘシ
- (二) 大連海關ノ職員ハ通則トシテ日本ノ國籍ヲ有スルモノタルヘシ但シ俄ニ缺員ヲ生スルカ若ハ臨時必要アル場合ニハ假ニ他ノ國籍ニ屬スル職員ヲ大連ニ派遣スルコトヲ得
- (三) 大連海關長ノ更迭ハ豫メ總稅務司ヨリ關東都督ニ通告スヘシ
- (四) 大連海關ト日本國官憲及日本國商人トノ往復ハ總テ日本文ヲ以テスヘシ
- (五) 海路大連ニ輸入スル商品ニハ輸入税ヲ課セス日本國租借地境界ヲ越エ清國內地ニ至ル各地ニ至ル各種ノ商品及產物ハ海關ニ於テ現行條約ニ從ヒ輸入税ヲ課スヘシ日本官憲ハ海關ノ許可證又ハ通關證ヲ有セサル商品ノ日本國租借地境界通過ヲ防遏スルニ就キ成ルヘク援助ヲ與フル爲適當ノ處置ヲ採ルコトヲ承諾ス
- (六) 清國內地ヨリ日本國租借地ニ來リタル海國商品及產物ニシテ大連ヨリ他所へ船積セラルルトキハ現行條約ニ依リ輸出税ヲ納ムヘシ日本國租借地ノ產物及該產物ヨリ製造セル商品若ハ海路同租借地へ輸入セル商品ハ輸出税ヲ納ムルヲ要セス日本國租借地内ニ於テ清國內地ヨリ來ル原料ヲ以テ製造シタル物品ニ對シテ納ムヘキ税ハ膠州灣ニ於ケル獨逸國租借地ニ於テ同一事情ノ物品ニ對シ現ニ納ムルモノト同一タルヘシ
- (七) 清國ノ條約港ヨリ大連へ來ル清國商品若ハ產物ハ日本國租借地内ニ在ル限リ納税ヲ要セスト雖モ右商品若ハ產物ニシテ日本國租借地境界ヲ越エ清國內地ニ入ル場合ニハ現行條約ニ從ヒ納税スヘシ
- (八) 大連ヨリ船積セラレ隨テ輸出税ヲ納メタル清國商品ニハ領收證ヲ下付シ清國條約港ニ於テ陸揚ノ際右領收證ヲ差出シ現行條約ニ從ヒ沿岸貿易税ヲ納ムヘシ
- (九) 日本國及其ノ他清國以外ノ商品ニシテ清國ノ條約港ヨリ大連へ船積セラルル場合ニハ該條約港ニ於テ納メタル輸入税ハ條約ノ規定ニ從ヒ拂戻ヲ受クヘシ右商品ハ大連ニ輸入セララルモ

三五

日本國租借地ノ境界ヲ越テ清國內地ニ入ラサル限リ何等ノ納稅ヲ要セス又右商品ニシテ大連ヨリ清國以外ノ地ニ再輸出セララルトキハ輸出稅ヲ納ムルヲ要セス

(十) 清國ノ商品又ハ產物ニシテ清國條約港ヨリ大連ニ船積セラレ同所ヨリ更ニ清國以外ノ場所ヘ船積セララルニ際シ右條約港ニ於ケル輸出稅納入證ノ證據書類ヲ提出スルトキハ輸出稅ヲ納ムルヲ要セス

(十一) 大連海關ハ噸稅、燈臺稅及港稅ノ徵收若ハ管理ニ干與セサルモノトス

(十二) 清國條約港ニ於ケル現行關稅率ハ大連海關ニ於テモ均シク之ヲ適用スヘシ

(十三) 日本國政府ハ大連ニ於テ該海關ノ爲メ其ノ事務所及職員宿舍建築用ニ供スル充分ノ地所(適當ノ庭園、厩並僕舍用共)ヲ備ヘ置クヘキコトニ同意ス

右地所賣渡若ハ貸渡ノ金額ハ同地ニ於テ雙方合意ヲ以テ定ムヘキモノトス

(十四) 稅關長及職員ハ陪席判事タリ又ハ其ノ他何等體役ニ從事スルノ責任ナキモノトス

(十五) 前記大連海關又ハ大連ヨリ清國內地ニ輸出シ並同内地ヨリ大連ニ輸入スル商品ニ對シ通過免狀ヲ發給ヲ專掌シ且同海關ハ清國ノ條約港ニ於テ謂ユル清國海關道ニ屬スル一切ノ職務、又ハ資格ヲ有スルモノトス

(十六) 第十五條ニ記載ノ通過免狀ニ對シテハ現行條約ニ依ル稅率即チ輸出稅若ハ輸入稅ノ半額ヲ大連海關ニ於テ徵收スヘシ

(十七) 海關規則ニ對シ商人ノ行ヒタル詐偽又ハ犯則ノ場合ニ於ケル處分手續ハ今後別約ヲ以テ之ヲ定ムヘシト雖モ大體ノ主義ニ於テ總テ司法上ノ手續ハ日本國法術ニ屬スヘキモノトス

(十八) 日本國租借地ニ於ケル商業ノ發達ニ伴ヒ現ニ豫知スヘカラサル必要ノ生スルコトアルヘキヲ慮リ本協定ハ暫定ニ屬スルモノトシ當事者雙方ハ本協定實行上ニ生スルコトアルヘキ不便ヲ除クカ爲必要アル毎ニ速ニ修正ヲ提議スヘキコトヲ約ス

(乙) 内水汽船航行ニ關スル協定

(一) 清國海關ハ正式ニ大連ニ於テ其ノ職務ヲ執行スルコトヲ認可セラレタルヲ以テ内水航行免狀ヲ發給スルコトヲ得内水航行免狀ヲ受ケタル汽船ハ一般ニ千八百九十八七月並同年九月ノ規則及千九百三年十月ノ追加規則ニ依ルヘキモノナリト雖モ尙特ニ差記ノ規定ニ遵スヘキモノトス

(二) 内水ヲ往復セントスル汽船ハ内外國何レニ屬スルヲ問ハス其ノ船籍證書ヲ海關ニ寄託シ願書ヲ出シテ引換ニ内水航行免狀ヲ受クヘシ該免狀ハ一箇年間效力ヲ有スルモノニシテ其ノ初度

發給ノ手数料ヲ十兩トシ爾後年々書換ノ都度二兩ヲ納メ噸税ハ四箇月毎ニ納入スヘキモノトス

- (三) 右免狀ヲ得タル汽船ハ規定ニ從ヒ(一)大連ヨリ内地ノ一箇所若ハ數箇所ニ往復スルコト
 (二)大連ヨリ内地ニ赴キ更ニ條約港ニ至リ再ニ内地ヲ經大連ニ歸航スルコトヲ得是等ノ汽船ハ
 地方ノ海關若ハ收稅所ニ成規ノ報告ヲ爲シ地方ノ關稅及諸稅ヲ納ムルトキハ總テ航行中ニ通過
 スル認可貿易場ニ於テ積荷若ハ乘客ヲ陸揚シ又ハ搭載スルコトヲ得但シ特別ノ許可ナクシテ專
 ラ内地ノ各所間ノミヲ往復スルコトヲ得内地航行中他ノ條約港ニ寄航スルトキハ成規ニ從ヒ
 同地海關ニ報告シ一般及同地ノ港則ハ總テ之ヲ遵守スヘキモノトス

- (四) 免許ヲ得タル汽船ハ大連發著ノ都度大連海關ニ出港手續又ハ入港ノ報告ヲ爲シ出入積荷目
 録ヲ交付シ寄港シタル場所又ハ寄港スヘキ場所ヲ報告シ規定ノ關稅ヲ納ムヘキモノトス阿片及
 禁制品ハ之ヲ軍入シ又ハ輸出スヘカラス若シ之ヲ輸入シ又ハ輸出シタルトキハ該物品ヲ沒收シ
 並該汽船ニ對シ五百弗ノ罰金ヲ課ス再犯スルモノハ内水航行免狀其ノ特權ヲ撤消スヘシ

- (五) 日本國官憲ハ大連海關ヲ援助シ密輸入殊ニ阿片及禁制品ノ密輸入ヲ禁止スヘシ

- (六) 大連及内地諸港間ニ於ケル清國閉糞郵便物ノ遞送ハ無料タルヘシ日本國租借地以外ニ於ケ
 ル清國郵便局發著ノ清國閉糞郵便物ニシテ同租借地ヲ經由スルモノノ遞送ニ關シテハ郵政廳ニ

於テ適當ノ方法ヲ協定スヘシ

- (七) 内水汽船航行ニ關スル協定ハ日本國租借地以外ノ河水ニ往復スル汽船ニ限り適用セラルヘ
 キモノトス

AGREEMENTS ABOUT THE ESTABLISHMENT OF A MARITIME
 CUSTOMS OFFICE AT DAIREN AND THE INLAND WATERS
 STEAM NAVIGATION.

Signed at Peking, May 30, 1907 (40th year of Meiji). Published June 11, 1907.

The Governments of Japan and China having agreed to the establishment of an office of
 the Chinese Imperial Maritime Customs at Dairen, the undersigned duly authorized by their
 respective Governments hereby engage to accept for the general guidance of that office, and as
 a preliminary and provisional measure, the detailed understanding set forth in the documents
 hereto attached, viz.,

- A. Agreement about the establishment of a Maritime Customs Office at Dairen, and
 B. Inland Waters Steam Navigation.

And it is further agreed that in the spring of next year after the experience of one season
 there shall be a reconsideration of the present arrangement in order to fuller accord with local

conditions and needs and that for the documents now accepted there shall be substituted a revised Agreement supplemented by an Ordinance, the former to be prepared by the Japanese Minister and the Inspector General of Customs and the latter by the Japanese Authorities of the leased territory in communication with the Commissioner of Customs at Dairen. And it is further understood that the Japanese Authorities will take steps to prevent smuggling from the leased territory into China and support the Chinese Authorities in the measures they adopt to prevent smuggling from China into the leased territory, and also that a suitable procedure shall be arranged for dealing with railway traffic at the Dairen terminus and the frontier station (Wa Faug Tien or other) and temporary regulations be made for collection of duties by the Customs.

Signed: G. HAYASHI, Seal

Minister of Japan.

Signed: ROBERT HART, Seal

Inspector General of Customs.

Signed and sealed at Peking the 30th May, 1907.

A.

Agreement about the Establishment of a Maritime Customs Office at Dairen.

1. The Commissioner or the Chief of the Maritime Customs Office at Dairen is to be of Japanese nationality.

The Inspector General of Customs will come to an understanding with the Japanese Legation at Peking in case of appointing a new Commissioner.

2. The members of the Staff of the Maritime Customs Office at Dairen shall, as a rule, be of Japanese nationality, in case, however, of a suddenly occurring vacancy or of temporary requirements of the Service, members of other nationalities may be provisionally sent to Dairen.

3. The Inspector General of Maritime Customs will inform the Govern-a-General of the leased territory beforehand about the change of the Commissioner of Customs at Dairen.

4. All correspondence between the Customs Office at Dairen and the Japanese authorities and Japanese merchants shall be conducted in the Japanese language. Should, however, merchants of other nationality come to reside at Dairen they shall be at liberty to correspond in English or in Chinese.

5. On merchandise brought by sea to Dairen no Import Duty shall be levied. Import Duty according to existing Treaties shall be levied by the Maritime Customs Office on all merchandise or products passing the Japanese frontier of the leased territory into the interior of China. The Japanese Authorities agree to take suitable measures to assist as far as it is possible in the prevention of merchandise passing the Japanese frontier when not provided with

a Permit or Pass by the Maritime Customs Office.

五二

6. When Chinese merchandise or products brought from the interior of China into the Japanese leased territory are shipped from Dairen to other places, they will pay the Export Duty according to existing Treaties. Produce raised in, and merchandise manufactured from produce raised in or imported by sea into, the Japanese leased territory shall pay no Export Duty. The Duty to be paid by articles manufactured in the Japanese leased territory from materials brought there from the interior of China will be the same as at present paid by articles in similar circumstances in the German leased territory of Kiaochow.

7. Chinese merchandise or products brought from Chinese Treaty ports to Dairen shall pay no Duty as long as they remain inside Japanese territory, but if these Chinese merchandise or products pass the Japanese frontier into the interior of China, they shall pay according to existing Treaties.

8. Chinese merchandise shipped from Dairen, and having paid accordingly Export Duty, shall be provided with a receipt, on the producing of which it shall pay, on being landed at a Chinese Treaty port, a Coast Trade Duty according to existing Treaties.

9. For Japanese and other non-Chinese merchandise, on being shipped to Dairen from a Chinese Treaty port, the Import Duty paid at the latter port shall be refunded by Drawback according to treaty stipulations. On being imported to Dairen such merchandise shall pay no

Duty, so long as it does not pass the Japanese frontier into the interior of China. On being reexported from Dairen to other places outside China, such merchandise shall pay no Export Duty.

10. Chinese merchandise or products having been shipped from a Chinese Treaty port to Dairen and reshipped from there to places outside China shall on this occasion pay no Export Duty, in case that documentary evidence is produced of their having paid Export Duty at the Treaty port from which they came.

11. The Maritime Customs Office at Dairen shall take no part in the collection or administration of Tonnage Dues, Lighthouse Dues, or Port Dues.

12. The Customs Tariff in vogue in the Chinese Treaty ports shall be applied likewise by the Maritime Customs Office at Dairen.

13. The Japanese Government agree to set apart for the Maritime Customs Office sufficient space at Dairen for building offices, buildings for the staff, with suitable room for garden, stables, and servants quarters. The amount to be paid for the site or lease of such ground is to be settled locally by mutual agreement.

14. The Chief of the Customs Office and the members of the staff shall be free from any obligation to act as jurors or assessors or from any other personal services.

15. The aforesaid Maritime Customs Office at Dairen shall be charged likewise exclusively

五三

with the granting and issuing of Transit Passes for merchandise going into the interior of China, as well as for merchandise coming from the interior of China to Dairen, and this office will be charged as well with all and every function, right, or capacity which appertain in the Treaty ports to the so-called Chinese Customs Treaty.

16. For the Transit Passes mentioned in Article 15, the Duty according to existing Treaties—i.e. half of the amount of the Export or Import Duties—shall be collected by the Maritime Customs Office at Dairen.

17. The procedure to be observed in case of frauds or contraventions committed by merchants against the Maritime Customs rules shall be settled hereafter by a separate Agreement, but it is understood in principle that all judicial procedure rests with the Japanese tribunals.

18. In view of the possibility that with the development of commercial activity in the Japanese leased territory new requirements may arise which are not to be foreseen, it is understood that the present Agreement bears a provisional character, and that both parties to it agree to introduce amendments as soon as required for the purpose of remedying inconveniences which may arise in the practical execution of this Agreement.

Signed: G. HAYASHI, Seal

Minister of Japan.

Signed: ROBERT HART, Seal

Inspector General of Customs.

Signed and sealed at Peking the 30th May, 1907.

B.

Inland Water Steam Navigation.

1. The Chinese Maritime Customs having been formally authorised to function in Dairen are now empowered to issue inland steam navigation papers; steamers thus permitted to ply on the inland waters are to be guided generally by the rules and regulations of July and September 1898 and the additional rules of October 1903, but more especially by the regulations herebelow set forth.

2. Steamers about to ply in the inland waters are required to deposit their national papers, Foreign or Native, with the Customs and will receive in exchange, on written application, the Inland Waters Certificate; such Certificates are valid for one year, and a fee of Tls. 10.00 is payable on first issue and Tls. 2.00 for each annual renewal. Tonnage Dues are payable once every four months.

3. Such certificated steamers may ply according to regulations (1) from Dairen to a place or places inland and back, and (2) from Dairen to a place inland, thence to a Treaty port, thence to a place inland, and thence back to Dairen. On Making due report to the local

Customs or Tax Office, and paying local Dues or Duties, they may land or ship cargo or passengers at any recognised places of trade passed on the voyage, but they may not ply between inland places exclusively without special authority. If visiting another Treaty port on any such inland voyage, the Customs at such port are to be duly reported to and all port regulations, national and native, complied with.

4. Whenever certificated steamers quit or return to Dairen, they are to clear from and report to the Dairen Customs, handing in Outward and Inward Manifests of cargo, reporting places to be called at or called at, and paying the prescribed Duties. Opium and contraband goods are not to be carried inwards or outwards; if carried, the goods are confiscable and the vessel subject to a fine of \$500,000, a second offence entailing withdrawal of Inland Waters Certificate and privileges.

5. The Japanese Authorities will assist the Dairen Customs to suppress smuggling—more especially the smuggling of Opium and contraband.

6. The transmission of Chinese closed mails between Dairen and inland ports shall be free of charge and the postal administrations concerned will arrange a fitting procedure for the transmission of such Chinese closed mails through the Japanese leased territory from and to Chinese port offices outside that territory.

7. The application of the Inland Waters Steam Navigation understanding will be restricted

to Steamers which ply on inland waters not inside the area of the Japanese Leased territory.

Signed: G. HAYASHI, Seal

Minister of Japan.

Signed: ROBERT HART, Seal

Inspector General of Customs.

Signed and sealed at Peking the 30th May, 1907.

八、支那ニ關スル日米交換公文（譯文）

四八

（大正六年十一月二日華盛頓ニ於テ（英文）
同年同月七日官報掲載）

一、米國務卿ヨリ石井特命全權大使宛公文

以書翰致啓上候陳者支那共和國ニ關シテ貴我兩國政府ノ共ニ利害ヲ感スル諸問題ニ付本官ハ最近閣下トノ會談中意見ノ一致シタルモノト了解スル所ヲ茲ニ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候
近來往々流布セラレタル有害ナル風説ヲ一掃セムカ爲閣下及本官ハ茲ニ支那ニ關シ兩國政府ノ等シク懷抱スル希望及意向ニ付更ニ公然タル宣言ヲ爲スヲ得策ナリト思惟ス
合衆國及日本國兩政府ハ領土相近接スル國家ノ間ニハ特殊ノ關係ヲ生スルコトヲ承認ス從テ合衆國政府ハ日本國カ支那ニ於テ特殊ノ利益ヲ有スルコトヲ承認ス日本ノ所領ニ接壤セル地方ニ於テ殊ニ然リトス

尤モ支那ノ領土主權ハ完全ニ存在スルモノニシテ合衆國政府ハ日本國カ其ノ地理的位置ノ結果右特殊ノ利益ヲ有スルモ他國ノ通商ニ不利ナル偏頗ノ待遇ヲ與ヘ又ハ條約上支那ノ從來他國ニ許與セル商業上ノ權利ヲ無視スルコトヲ欲スルモノニ非サル旨ノ日本國政府累次ノ保障ニ全然

信賴ス

合衆國及日本國兩政府ハ毫モ支那ノ獨立又ハ領土保全ヲ侵害スルノ目的ヲ有スルモノニ非サルコトヲ聲明ス且右兩國政府ハ常ニ支那ニ於テ所謂門戶開放又ハ商業ニ對スル機會均等ノ主義ヲ支持スルコトヲ聲明ス

將又凡ソ特殊ノ權利又ハ特典ニシテ支那ノ獨立又ハ領土保全ヲ侵害シ若ハ列國臣民又ハ人民カ商業上及工業上ニ於ケル均等ノ機會ヲ完全ニ享有スルヲ妨礙スルモノニ付テハ兩國政府ハ何國政府タルヲ問ハス之ヲ獲得スルニ反對ナルコトヲ互ニ聲明ス

本官ハ貴我雙方間ニ意見ノ一致セセルモノト了解スル前記各項ニ對シ閣下ノ確認ヲ得ムコトヲ致希望候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

一千九百十七年十一月二日

在華盛頓國務省ニ於テ

ロバート・ランシング

二、石井特命全權大使ヨリ米國務卿宛公文（省略ス）

四九

EXCHANGE OF NOTES BETWEEN JAPAN AND THE UNITED STATES
REGARDING CHINA.

Dated at Washington, November 2, 1917 (6th year of Taisho).
Published November 7, 1917.

FROM THE SECRETARY OF STATE TO VISCOUNT ISHII.

Department of State,
Washington, November 2, 1917.

Excellency:—

I have the honor to communicate herein my understanding of the agreement reached by us in our recent conversations touching the questions of mutual interest to our Governments relating to the Republic of China.

In order to silence mischievous reports that have from time to time been circulated, it is believed by us that a public announcement once more of the desires and intentions shared by our two Governments with regard to China is advisable.

The Governments of the United States and Japan recognize that territorial proximity creates special relations between countries, and, consequently the Government of the United

States recognizes that Japan have special interests in China, particularly in the part to which her possessions are contiguous.

The territorial sovereignty of China, nevertheless, remains unimpaired and the Government of the United States have every confidence in the repeated assurances of the Imperial Japanese Government that while geographical position gives Japan such special interests they have no desire to discriminate against the trade of other nations or to disregard the commercial rights heretofore granted by China in treaties with other Powers.

The Governments of the United States and Japan deny that they have any purpose to infringe in any way the independence or territorial integrity of China and they declare furthermore that they always adhere to the principle of the so-called "open door" or equal opportunity for commerce and industry in China.

Moreover, they mutually declare that they are opposed to the acquisition by any Government of any special rights or privileges that would affect the independence or territorial integrity of China or that would deny to the subjects or citizens of any country the full enjoyment of equal opportunity in the commerce and industry of China.

I shall be glad to have Your Excellency confirmed this understanding of the agreement reached by us.

Accept, Excellency, etc, etc,

ROBERT LANSING.

大正十三年五月十六日

臨時條約改正調査委員會第六小委員會
第六回會議々事要録

(支那置金廢止内地開放問題方針審議ノ件)

(外務省内第一會議室ニ於テ開催)

臨時條約改正調査委員會第六小委員會第六回會議々事要録（大正十三年五月十六日外務省內第一會議室ニ於テ開催）

出席官

委員長 松平 外務次官

委員 出淵 亞細亞局長

（兼幹事）川島 平和條約事務局部長

齋藤 外務書記官

委員 重光 外務書記官

黒田 主税局長

矢部 大藏技師

（兼幹事）富田 理財局長

(昭和十一年所載ノ通り)

以上

- 委員 櫻井 副委員長
- ・ 田中 工業局長
- ・ (兼幹事) 佐々木 農商務書記官
- ・ 青木 警備局長
- ・ 林 参事 上外務参事官
- 關係官 堀内 外務参事官
- 石井 参事 内務参事官
- 吉田 参事 農務参事官

昭和十一年三月二十一日
 農務省
 農務局長 佐々木 謙
 農務参事 吉田 清
 農務参事 石井 謙
 農務参事 堀内 正
 農務参事 林 有造
 農務参事 青木 義典
 農務参事 田中 一
 農務参事 櫻井 謙吉

是ヨリ會開シ幹事會提出ノ甲、乙兩案ニ付審議スヘシ
川島委員並幹事

一 臨時幹事會ニ於ケル經過ヲ報告セン幹事會ニ於テハ出淵委員ノ意見
ニ基キ乙案ヲ作成シ從來ノ幹事會迄（甲案）ト對照シ出席得ル限り
兩者ノ趣ヲ接近セシムル際多少甲案ヲ修正スルコトトシタリ願シテ
出淵委員ハ右乙案ニ付テハ全額同意セラレ居リ又甲案ニ對シテハ
配ノ過多少變更ノ箇所アルモ其ノ根本精神ハ原案ト少シモ變ラズ今
兩案ニ付テ審議セントスルニ際シ附言シタキハ乙案ハ出淵委員ノ提
案ヲ幹事會ニ提出シ幹事會ニ於テハ右ニ對シ何等意見ヲ加ヘスシテ
其ノ趣ヲ委員會ニ提出スルコトトシ又出淵委員ヨリ提出ノ乙案理由書ヲモ
チタリ兩者何レノ案ヲ採用スルヤハ不明ナルモ會長ニ報告スルニ際

シ小委員会ノ決定ノミヲ報告スルカ將又少數案
ヲモ附加スルヤヲモ審議ヲ請ヒタシ次ニ草案理由書ハ別ニ之ヲ附セ
スレテ委員会ニ報告スルコトトナシタルモ參考ノ爲自分ノ私案トシ
テ理由書ヲ作成シタルヲ以テ別ニ本委員会ニ提出スル程ノモノナラ
ザルカ只草案ト乙案トノ別異ヲ同設ナラシムル爲之ヲ記布スルコト
トス

公平委員長

兩案ニ分レタル以上兩案別々ニ理由書ヲ付スルコトトシテハ如何又
審議ハ甲案ノミニ付テ進ムヘキヤ或ハ兩案共々ニ参照シ進ムコトト
スヘキカ

黒田委員

兩案ヲ對照シテ進ムヲ便利トス而シテ何レカヲ採用スルコトトナラ
ハ之ヲ會長ニ報告サルヘキナランモ兩案何レモ重大問題ナレハ先ツ
審議シテノ後タルヘシ尙乙案ニ於テ正金銀行ノミニ保管銀行ヲ限レ
ルハ如何ナル理由ナルカ

出納委員

3
實額同額トシテ是ヨリ方法ナカルヘキヲ以テ正金銀行ヲ加ヘタリ正

金銀行ト限レルハ正金ハ關稅保管銀行ナレハ「カストヂヤン、ベン
クート」シテ國際銀行中ニ入ルルヲ至當ト思ハル即チ日本ノ銀行ノ何
レヲ入ルルカト云フコトトナラハ右ノ理由ニ依リ正金銀行ヲ關稅保
管銀行ト爲シタキ意向ナリ尙甲案中ノ(ト)ニ在ル如ク「關稅保管銀行
ノ範圍ヲ適當ニ擴張スルコト」トアルモ其ノ趣旨タル恐ラク日本ノ
銀行ト明示シタキ所ナルヘク思考セラル若シ夫レ白耳義、和蘭、西
班牙等ノ銀行ヲモ含マスモノトセハ之ニハ絕對反對ナリ

四條委員

甲案ヲ基礎トスルカ乙案ヲ基礎トスルカ決定スル要アルモ至當リ甲
案ヲ基礎トセハ甲案(九)中ニモ一項ヲ加ヘラレタシ即チ穀類輸出禁止ノ主
義ヲ緩和シ且棉花及鐵礦ノ輸出稅ヲ減免セラレタキ趣旨ナリ

富田委員報告

借款整理ニ付一應大蔵省國庫課調ノ關稅増收入及整理案ヲ中心トシ
説明スヘシ支那關稅收入ハ今回ノ二分五厘ノ増收二千五百萬元（華
府會議關稅委員長「アングーウッド」調ニハ二千九百萬元其ノ他外
務省調等アルモ）舊關稅率ニ依ル收入八千萬元現實五分増收入一千
二百萬元合計一億千七百萬元トナリ此外貿易ノ増進ニ依ル増收入約
三百萬元ニシテ之ヲ以テ如何ナル程度迄無擔保及擔保不確實ナル内
外債整理ヲ爲シ得ルヤニ付先ツ借款ヲ見レハ財政部、交通部ノ内外
債合計八億一千萬圓（邦債ニ換算シ）トナル依テ右ヲ如何ナル方法
ニシテ整理スヘキカト言ヘハ是又種々ノ方法アラシモ大蔵省トシテ
ハ財政部及交通部ノ借款ニ付當分利拂ノミヲ行ヒ其ノ財源ハ千九百

二十四年ヨリ關稅引上ノ實施ヲ爲スモトシテ二分五厘加徴後ノ關

稅額約二千萬圓トナリ一九四八年ニハ二分五厘以外ニ別ニ増徴セラルモ剩餘額一億六千萬圓、ナル所シ

テ當初ノ不足額ハ煙酒稅、鹽餘ヲ以テ補充シ尙不足分ハ利拂借款ニ

依ルコトトシ借款ハ總テ新ナル公債ニ代ヘ利率ハ六分ヨリ八分ニ至

ルモノナルカ償還年限ハ大體三十年ヲ最長ニシ二十四五年ヲ普通ト

ス「バドール」ノ案ニ依ルモ初メノ五六年ハ不足スル故償還及利拂借

款ニ依リ五六年ニシテ關稅收入額モ増加スル故其ノ時ハ元利拂ヲ爲

シ漸次整理スル案ナリ而シテ「バドール」案ハ公債發行額六億二千五

百萬元ナルカ大藏省國庫課へニ依レハ六億四千五百萬元ナリ尙不

足分ニ付利拂借款ノ方法ヲ以テスレハ銀行家ハ轉面上ハ整理出來得

レトモ實際正金カ入ラヌ爲結局整理案ノ實行カーケ年遅ルレハツレ

丈ケ利拂借款ノ額カ増加スルコトトナリ債権者ハ困ル弊ナレハ乙案
ヲ基礎トシ成ルヘク早ク附加税ヲ實施シテ右ノ方法ニ依リ二十年乃
至三十年間ニ借款ヲ整理スルコトト致シタシ

出渡委員

借款整理方法ニ付テハ富田委員ヨリ説明アリシ如ク全然同感ナルカ
前同ヨリノ問題タルトコロハ日本ノ支那ニ於ケル貿易ハ非常ニ小ナ
ル「マーチン」ナレハ二分五厘ノ増加ハ打撃大ナリトノコトナルモ
實業界方面ノ人々ニ接シ此ノ事ヲ電シタルニ新ク語レリ「尤モ此ノ
事ヲ語ルニハ先ツ支那對歐米及日本對歐米ノ貿易關係ヲ述ヘ之ト日
本對支那ノ貿易トヲ比較スルヲ要スルモ此ハ暫ク措キ支那對日本ノ
モノ貿易關係ニ付テ述ヘン」前同ノ稅率改訂ノ際モ平素ハ大分日本
國內對支貿易業者ノ反對アリシカ愈々決定實施トナレハ左程ニ反對
モナシ（小商人ハ別トシ）之畢竟稅率引上ハ大ナル影響ナキモノト
シテ之ニ重キヲ置クニ非スシテ寧ロ爲替相場改變ニ依ル「リスク」

ノ大ナルト商埠上ノ資金缺乏ニ苦ミ居ルカ爲ナリ即チ貿易業者トシテ
 今日揚子一團二分位重價ノ金ヲ貸リ居ケレハ資金融通ニ付利ニ事来ヲナスノ途サヘアレ
 ハ商埠引上ニ引ラス田舎ノ山手特ト云トニテ例ヘハ綿糸十六番手ヨリ二十番手ハ日本
 ニ於テ製造シ之ヲ支那ニ輸出スルモ到底利益ナク是等ニ關スル支那
 工業ハ最近大ニ發達シ百萬餘モ動キ居ル現状ヨリ關稅ヲ引下ケテモ
 尙且十六番手以下ノ日本糸ハ支那ニ於テ競争出來得ス如何ニ之ニ對
 シテ日本ハ積極的ニ努ムルモ支那産品及印度等ノ綿糸ニ及ハス從テ
 今後ハ力ヲ細糸ニ集注スルノ必要アルモノニシテ此際原料品以外ノ
 モノニ二分五厘位引上ケラレタトテ悉ノミ苦痛ナラサルヘク又無擔
 保借款カ確實擔保借款ニ變化セハ之ヲ抵當ニ資金ヲ得テ事業ヲ經營
 スル等種々ノ便益アリト云フ故ニ此際速ニ外債ノ整理ヲ爲シ之ニ依

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

日銀を債権資金ノ如キ形ヲ以テ貿易資金ノ運用ヲ計ル方途ニ得策ナ
 ルヘシト爲スモノナリ故ニ甲案ノ如ク實行不可能ナルモノニ向テ進
 ムヨリ乙案ノ如ク現實ニ支那ヲ利シ現實ニ日本工業界ヲ利シ引テハ
 日本國家ノ財政ヲ利スル方面ニ進マサルヘカラス又保管銀行ニ付テ
 ハ一國者雖ノ金額ヲ現在ノ如ク一ノ銀行ニ獨占保管セシム
 ル代リニ正金銀行等ヲモ之ニ參與セシノハ益ニ又少クトモ數千萬圓
 ノ正金ニ依リ在支邦人向工業者ニ銀ノ融通ノ道モ開カルヘク條約上
 ノ義務サヘモ履行シ難キ其下支那ノ四分五裂ノ狀態ヨリ考究スルトキ
 ハ少クトモ對支日本貿易家ノ金融ノ途ヲ開スルコトニ向テ進ム餘々
 ニ支那ヲシテ通商上ノ發展ヲ計ラシムルコト得價テリ中間的ノ二分
 五割ノ使途ニ付斯クモ論議サルルハ華府條約締結當時ノ全權及其ノ
 會議ノ精神ト第二條及第三條ノ解釋ヨリ甚タ遺憾トス

佐々木委員兼幹事

支那ニ輸出スル日本太綿ハ思ハシカラサレハ之ニ力ヲ注クハ不利ニ
シテ宜シク留ノ方法ニ向テ力ヲ注クテ可トスヘシト云フ説必スシモ
同意シ難シ何トナレハ太糸ハ現今ニ於テサヘ五千萬圓程度ハ輸出サ
レ居リ支那ニ於テハ工業盛ナルハ事實ナルカ支那糸ハ質粗悪ニシテ
即多ク多量ニ製産サルル故テ以テ良好ナリト言ヘス現ニ震災ノ際日
本ノ製産額半減減シ一時支那製綿糸輸入サレタルキ其ノ品質機械織布ニ
遠セサル所今日ニ於テハ輸入激減セリ又質粗ハ支那カ安キ故支那ニ見
込多シトモ亦固定セラレス即チ日本糸ハ品質等ヨリ現ニ傾カノ差ナリトモ猶優者ノ地位ニ在リ之
ニ對シ二分五厘ノ及ホス影響多キハ事實ナリ幸府會議ノ當時ノ説明
アリタルモ當時ノ陳述ニ依レハ斯ク解スルチ得ス尙又金融及外債等

Vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

ニ付テ主務尤ノ説ナレト日本カ外債中幾何ヲ取り得ルヤサヘ不明ニ
シテ利率ノ高尙且借款ヲ起スハ無理ナルコトナリト思考セラレ依
テ此ノ際ハ通商ノ發展ヲ期スルト同時ニ外債ヲ整理シ得ル方法トシ
テ兩者ヲ併行的ニ採用シタル甲案ヲ採用スルコトトシタシ

松村委員

日本ノ紡績關係ト支那ノ紡績關係トノ競争ハ今尙盛ニシテ日本ハ支
那ニ比シ劣ルトコロナシ尤モ實銀ハ支那ニ於テハ安イモ支那ハ能率
上ラス焉ニ平均ヲ取り得ルナリ銀ノ下落ニ付テハ不利益ノ場合モア
レハ利益ノ場合モアリ此ハ商賈人ノ言ニシテ採算上ノ問題ナラス吾
々ハ國家最高ノ政策ヨリ出發シテ採算上ニ基礎ヲ置カサルヘカラス
官吏ノ補給サヘ支拂ヒ得サル支那ニシテ如何テ外債整理力確實ニ出

來得ルヤ而モ其ノ整理ナルモノハ增收額ヲ全部取上クルモノナレハ
支那ノ財政ヲ強固ナラシムルニハ無堪ナルコトナリ

富田委員兼幹事

借款整理ニ依リ日本ハ何レ文取り得ルヤニ付テハ增收額ヲ條件トシテ
二十年乃至三十年間ニハ日本ノ借款ハ全部整理セシムルナリ尙又増
収額ヲ全部取レハ支那政府ハ得ルトコロナシト言フモ是レハ支那人
自身ヨリ得ラルヘキ金ナラスシテ二分五厘關稅增收ヨリ得ラルヘキ
モノニシテ結局支那ニ於ケル外國人ヨリ得ルモノナリ今日ノ處ニ借
款ヲ放任シ置クコトハ其ノ借款タル方法ノ如何ニ依リテハ動キ得ヘ
モノヲ見ス見ス固定セシノ所謂死ニ金ヲ元ニ金トシテ置クニ止マル
使テ之ヲ整理スルトキハ元ニ金モ活キ金ト化シ流動シ得ルナリ

堀内閣録官

華府會議ニ於テ二分五厘ヲ特別會議ニ附議スルコトトシタルハ初メ
 日本ニ於テ二分五厘ノ實施ニ對シテ關稅制度調整、外債整理ノ外資
 易打撃緩和ニ必要ナル條件ヲ附セムトシタルカ會議ノ空氣ハ之カ實
 績不可能ナルヲ看取シ全權ノ意見ニ基キ之カ貫徹ヲ期スルカ爲支那
 ニ於テ特別會議ヲ開催シ支部事情ニ適應スルモノヲシテ親シク支部
 ノ事情ヲ目撃シテ此等具體問題ノ決定ヲ爲サシムルコトトシタルニ
 因ルモノナリ

松平委員長

御意見モ充分伺ヒタレハ他ニ意見ナキモノト思ハルルニ付甲案乙案
 ニ付採決スヘシ面シテ其ノ次ニハ決定シタル案ノミ小委員會ノ決定

トシ曾長ニ提出スルヤ成ハ否決セル案モ共ニ少数意見トシテ附記シ
シテ強固スヘキヤノ同類ヲ決定モサルヘカラス

（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns.)

矢部、富田委員

少數意見トシテ免ニ角提出スヘキモノナリ

西條委員

甲案ヲ新モ基礎トシ決定サルルニ於テハ甲案ニ對シ修正意見ヲ有ス
ルモノナリ夫レハ現實ノ困難トシテ項目ヲ入レタシ元來甲案中ニモ
實行容易ナラサルモノアリ因テ一項トシテ雖ニ付提出自由ナラシムル
處ヲ開カシムルコトトシタシ 陸ノ如キハ長芦鹽田ノ如キ支那有數ノ大鹽
田アリ此ノ地ヨリ生産セラルル六百萬噸中セメテ半分位ニテモ工業
用トシテ輸出ノ出來得ルコトトテラハ結構ナリ

山田委員

陸ノ如キ支那有數ノ大鹽田アリ此ノ地ヨリ生産セラルル六百萬噸中セメテ半分位ニテモ工業
用トシテ輸出ノ出來得ルコトトテラハ結構ナリ

ノミナラス鹽稅ハ香後借款ノ擔保ト成リ活ルヲ以テ不可能ナルコト
言テ候タス假令一端力ノ督軍等ヲ勸カシタリトテ稅關カ
輸出ヲ許ササルヘシ

四條委員

鹽ハ鹽類ト等シク無禁ノ鹽ナシトハ承知シ候ルモ二分五厘附加稅ヲ
承認スル代價トシテ大レ但支那ハ日本ニ便宜ヲ許ルモ宜カラシ又鹽
稅ハ擔保トナリ居ルモ輸出ニ際シ相當ノ稅ヲ納ムレハ應テ支ナカ
ラム

齋藤委員

鹽ニ付テ輸出解禁不可能トノコトナルカ強チ緩相不可能ナラスト
考ス此ハ五六年間ニ於テ日本ニ鹽ヲ輸出シテモ差支ナシトノ了解モ

録ヲタルコトアリテ地方政權ノ承継サヘ此時得タリセハ了解成立シ
タリシナラン尤モ長芦鹽田ハ北方ニ傾リ居レハ運送ニ付注意ヲ要ス
ルハ勿論ナルモ見ニ角鹽ニ付テハ輸出ノ益ヲ圖カシムルコト必要ナ
リ
川島委員兼幹事
然ラハ田條委員ノ意見ヲ察シ草案(二)ノ冒頭三(穀類及鹽)ノ輸出禁止ノ
主眼ヲ移シシムルコト一ノ趣旨ヲ加ヘテ説明中ニ長芦鹽田ノ如キ
トコロヨリ輸出セシムルコトヲ附記スルコトトセン

齋藤委員

尙乙案ニ對シテモ甲案ニ對シテモ二者ノ相違點ヲ說明中ニ明ニ附記セラレタシ

出酒委員

乙案假リニ否決セラレタリトテ甲案ト共ニ少數説トシテ提出アリタク尙甲、乙兩案ノ說明ハ充分明ニセラレタシ

松平委員長

然ラハ採決セン甲案ニ對スル賛成者ノ起立ヲ望ム(六名)多數ナリト認メ甲案ヲ決定シタルモノトス乙案ニ對シテモ相當重大問題ナレハ少數意見トシテ會長ニ報告シ兩者ノ理由書ヲ明瞭ニ作成シ附スルコトトスヘシ

次ハ第二支那捕税制度運用調整問題ナリ

川島委員兼幹事

第二ノ中興銀行ノ問題ハ二分五厘問題ニ依リ既ニ決定セラレタル
モノナレハ問題ナカルヘシ

出淵委員

「海關用語」トハ如何

川島委員兼幹事

「用語」ハ英語支那語ヲ以テ海關用語トナシ居レハ機會均等ノ主義
ニ依リ日本語ヲ以テシテモ可ナラスヤ之カ不可能ナルニ於テハ或ハ
本邦貿易關係ノ最モ密接ナル地方ノ税關ニ於テノミナリトモ日本語
ヲ用ヒ得ルコトトスルモ可ナリ

松平委員長

第二ハ英艦ナキカ

英艦ナクハ第三陸境國稅輕減率廢止問題ニ入ルヘシ

Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page, including characters like 英艦, 陸境, 國稅, 輕減, 率廢, 止問, 題ニ, 入ル, ヘシ.

川島委員兼幹事

第三ハ華府會議條約第六條中ノ「コンセツション」ニ關スル但書ニ
依リ此ノ必要ヲ認メタルモノナルカ我方トシテハ輕減率ノ廢止ニ付
各該項一併且同時ニ實施セラルルコトヲ條件トセルモノニシテ同時
且一律ニ實施セサルトキハ佛領印度支那英領緬甸等ノ接境ニ於テ輕
減率ノ利益ヲ受ケ備録陸境經由輸出入貨物ニ對シテハ利益享受セサ
ルコトトナリ我方ニ不利ナルノミナラス右條件ハ支那ニ於ケル國會
均等ノ主義ノ外我方カ歐米及華府會議時ニ於テ常ニ主張シ居ル通商
均等ノ主義ヨリモ絕對ニ必要ニシテ特ニ後者ニ付テハ未タ世界ノ大
勢ハ必スシモ之ヲ承認シ居ラス日本ハ是ニ對シ國際聯盟等ニ於テモ
主張大ニ勢メタル關係モアリ大ニ之カ徹底ヲ期スル必要アリ在テ右

ノ條件カ各國ノ同意ヲ得ハ日本トシテハ現存艦隊ヲ廢止スルモ差
支ナシト雖ノ居レリ

松平委員長

第三ニ付テハ異議ナキカ

異議ナキモノト認ム依テ本委員會ハ大体ニ於テ決定セルヲ以テ之ヲ
整理シ會長ニ報告スルコトトナルモ同附書ニ於テ異議ナクハ總會ヲ
開カスレテ條約改正委員會委員全額ニ之ヲ送付シ全委員異議ナクハ
初メテ委員會ノ決定トセラレ度旨會長ニ報告スヘキモ或ハ總會ヲ開キ一
度本小委員會決定ヲ審議スル必要アリヤハ總會必要ナシトノ大体ノ
意向ナリ

諸君ハ本委員會ハ甲案ヲ以テ決定ノモノトシ而シテ本會ニ對テソノ理

由書ヲ「コンクリート」ノモノトシタル上之ヲ會長ニ報告スヘシ然
シテ同時ニ委員會全委員ニ文書ヲ以テ通知シ尙乙案モ相當重大問題
ナレハ少数意見トシテ説明書ヲ付シ同時ニ會長ニ提出ノ上委員ニ通
知スヘシ

本小委員會モ永キニ且リ數回ノ會合ヲ重ネタルカ茲ニ審議ヲ了ルニ
際シ此間ニ於ケル諸君ノ勞ヲ謝シ是ニテ散會ス

(五時二十分散會)

(甲案)

(議題)

④ 二分五厘附加税及奢侈品五分ノ特別附加税ハ下記條件ノ實行

並前記④及⑦冒頭所載支那カ條約上頁ヘル義務(排貨問題ヲ

含ム)ノ確保ヲ條件トシテ之ヲ同意スルコト

⑤ 商埠地域内ニ於ケル外人ノ工場經營及外支人合辦企業ニ關ス

ル制限ヲ撤廢セシムルコト

⑥ 前記③所載均衡的生産税カ賦課セラルルコト

⑦ 厘金税中負擔最モ容易ナルモノニ付其ノ一部ヲ撤廢セシムルコ

ト

⑧ 棉花及鐵鋼ノ輸出税ヲ減免スルコト

⑨ 支那現行噸稅制度ノ改善ヲ計ラシムルコト

④ 新擔保及擔保不確實外債ノ整理ニ付満足ナル計畫ヲ樹テ之ヲ
實行セシムルコト

⑤ 各國ノ貿易額及債權額等ヲ考量シ關稅保管銀行ノ範圍ヲ適當
ニ擴張スルコト

⑥ 關稅引上ノ實施期ハ何レノ場合ニ於テモ特別會議ニ於テ之ヲ
決定セス之カ決定ハ條約所定其ノ他ノ條件ニ關シ支那側ノ國際
義務實行ニ關スル見解相當付キタルコトヲ外交團ニ於テ認定シ
タル後ニ課ルコト但シ如何ナル場合ニ於テモ關稅引上ノ實施ハ
其ノ決定公表後相當ノ猶豫期間ヲ設ケシムルコト

(乙 案)

(例) 二分五厘附加税及奢侈品五分ノ特別附加税ハ左記條件ノ下ニ之ヲ同意スルコト

(1) 無擔保外債及擔保不確實外債ヲ整理スルコト

(2) 正金銀行ヲ開發保管銀行タラシムルコト

(3) 金廢止ノ準備ヲ爲シ且廢廢最モ容易ナルモノニ付出來得ル限リ速ニ其ノ廢止ニ努ムルコト

(4) 前記(3)所載均衡的生産税制度ヲ速ニ制定シ其ノ實施ニ努ムルコト

兩文部ヲシテ外國人ノ居住、旅行營業致貨物ノ輸出入及陸送ノ自由ニ付條約上ノ義務(適宜排貨問題ニ言及スルコト)ヲ

認シ且出來得ル限り該實ニ之ヲ實行セシムルコト

(丙) 穀類輸出禁止ノ主義ヲ緩和シ且原料品ノ輸出ヲ自由ナラシムヘキコトヲ聲明セシムルコト

(丁) 鐵道聯絡ノ改善ニ努ムルコト

(戊) 關稅引上ケノ實施期ハ特別會議ニ於テ決定スルコト但シ其實施ハ決定公表後相當ノ豫算期間ヲ設クルコト

理由

(甲案 川島幹事私案)

〔元來華府關稅條約ノ精神タルヤ支那ノ財政ヲ強固ニスルカ爲メ英米等カ支那ト約セル「マツケ」條約及日支追加通商條約ノ規定ヲ實行スルノ措置ヲ審議決定スルヲ以テ目的トスルモノナルカ故ニ一方列國ニ於テ相當ノ程度迄關稅率ノ引上ケヲ同意セサルヘカラスト共ニ他方之レカ爲支那財政カ強固トナリ更ニ關稅率ノ引上ケヲ見ルカ如キ事實ナキヲ確保スルコト并ニ之レカ引上ケノ結果列國ノ通商ニ及ホスヘキ影響ヲ出來得ル丈ケ緩和スルノ方法ヲ講スルコトヲ以テ絕對ノ條件トセルヤ疑ナシ而シテ右華府關稅條約第三條ハ厘金全廢ニ至ルヘキ暫行的措置ヲ規定スルモノタルコト勿論ナルモ之ヲ以テ列國既得ノ條約上ノ權利ヲ放棄シタルモノ

即チ「マツケー」條約トノ規定ニ全然無關係ニ二分五厘増額ヲ同
意シタルモノト認ムルヲ得ス換言スレハ「マツケー」條約等ノ範
圍内ニ於テ其ノ部分的實施ヲ爲スコトヲ同意シタルモノト爲ササ
ルヲ得ス蓋シ斯ク解スルコトナク二分五厘増額ハ全然第二條ノ規
定トハ關係ナク實行セラルヘキモノトセハ二分五厘關稅引上ケノ
ミカ實施セラレ鑒金全廢其ノ他ノ條件ノ實行ハ永久ニ實現セサル
コトトナリ列國ハ華府條約第三條ニ由リ既得ノ重大ナル權利ヲ擁
護セルモノトナルヘシ加之華府會議ニ於テハ二分五厘ノ増徴ニ關
シ帝國全權ハ使途制限及海關制度ノ運用調整ノ外貿易ノ打撃緩和
ノ爲實施期三年乃至五年延長等ヲ條件トスヘキ意圖ヲ内示シ其ノ
結果實施期、賦課ノ目的及條件ニ付テハ他ノ暫行規定ト共ニ之ヲ

特別會議ニ於テ決定スルコトトナリタル經緯ヨリ見ルモ二分五厘
引上ケニ對シテモ其ノ通商上ニ及ホスヘキ影響ヲ最少限度ニ爲ス
ヘキ措置ヲ講スルコト并ニ右二分五厘引上ケニヨリ支那ノ財政上
相當程度迄安固トナルヘキ確信ヲ得ヘキ方法ヲ採ラサルヘカウサ
ルハ當然ノ次第ナリ

〔七〕七分五厘ノ輸入税ハ現今我國其ノ他各國ノ税率ニ比シ相當高率ナ
ルノミナラス本邦對支貿易ハ特別ノ地位ヲ有シ右引上ケニヨリ生
スル支那内地工業ノ間接的保護ニヨリ最モ大ナル打擊ヲ受クヘキ
モノナルコトハ各國ノソレト全ク異ナルモノアルヲ以テ之カ緩和
ノ爲甲案ノ條件ヲ實行セシムルコト絕對ニ必要ナル處此等各種條
件ハ適當ノ方法ニ依ルトキハ支那ノ現狀ヨリ見ルモ實行必スシモ

不可能ナラサルノミナラス其ノ内イ同例等ノ如キハ英國滿ニ於テ
モ現ニ主義上承認シ居ルモノナリ

甲案ニ於テハ通商障礙除去ノ爲各種條件ヲ實行セシムルノ外關稅
増收ノ相當部分ヲ外債整理ニ充當スルコトニハ異議ナキモ右充當
ノ方法ハ設然日本ノ貿易業者ヨリ關稅引上ケノ形式ニヨリ取り上
ケタル收入ヲ外債所有者タル銀行等ニ引渡スカ如キヲ以テ満足ス
ヘキニ非ス必スヤ此機會ニ外債整理乃至進ンテハ支那ノ財政ニ關
シ根底的整理ヲ行ハシメ以テ今次ノ引上ケハ充分支那財政上有用
ニ使用セラレ奉府會議ノ豫想セルカ如ク之ニヨリ支那財政ノ將來
ニ付キ確固タル見込ヲ立テシメサルヘカラス然ラサレハ過去ノ實
例及土耳其等ノ先例ニモ明白ナルカ如ク不確實借款ノ整理ハ早ニ

Vertical columns of faint Japanese text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

一時ノ息ヲ盡クニ止リ再ヒ期年ナラスシテ今日以上ノ不政實俄
ノ無積ヲ見ルニ至ルヘキヲ以テナリ之レ支那ノ忠實ナル友邦トシ
テ内ノ餘件附加ヲ必要トスル所以ナリ

理 由 (乙案)

「專府國稅條約第三條成立ノ沿革並ニ其ノ解釋上二分五厘附加税ニ
ハ釐金廢止其ノ他ノ通商障礙除去ヲ絕對的條件トスルハ甚々無理
ナルノミナラス專府會議ニ於テ英國委員ハ釐金廢止ニ至ル迄ノ過
渡的措置トシテ二分五厘増徴ヲ主張シ帝國委員ヨリ之ヲ以テ外債
整理ニ充テムコトヲ主張シ且關稅制度ニ對シ公平ナル調整ヲ希望
シタルニ對シ他國委員ニ於テ之ヲ特別會議ニ於テ議スルニ異議ナ
カリシ外英支委員カ支那政府財政上富面ノ需要ニ應ジタル輸移ヲ
以テ土木其他公共事業ニ充ツルノ意見ヲ提シタルノミニシテ特ニ
其他ノ條件ヲ主張シ居ラサルニ付甲案ノ如ク各種ノ實行困難ナル
事項ヲ條件トスルハ關稅條約第三條ノ精神ニ副ハサルモノト思ハ

ニ之ヲ支那ノ現情ヨリ見ルモ甲案ノ如ク支那政府ニ對シ通商障礙除
去ニ必要ナル措置ナル措置ノ實施ヲ強ユルモ其實績ヲ舉クルコト
頗ル困難ナルヘシ

ニ支那現在ノ無擔保及擔保不確實外債約四億五千萬圓中本邦側ノ分
約二億五千萬ニ達シ之カ爲金融硬塞ノ今日我對支企業家及貿易業
者ハ均シク資金ニ苦シミ居リ假令幾分通商障礙ヲ除去シ得ルトス
ルモ之ニ依リ直ニ在支邦人企業及貿易ノ發展ヲ豫期シ得サルノ狀
態ニ在ルノミナラス二分五厘増徴ノ爲本邦貿易ノ蒙ムルヘキ打撃
ハ左程重大ナラサルヘシト思ハルルヲ以テ此際成ルヘク是ニ此等
無擔保及擔保不確實債權ノ整理ヲ行ヒ對支企業貿易資金ノ硬塞ヲ

緩和スルコト寧ろ我對支經濟發展上得策ナリト思考セラル加之關
稅増徴ニ依ル外債整理ニ對シテハ初メ英米二國側ニ於テ反對ノ態
度ヲ執リタルモ最近在支英國公使ハ之カ必要ヲ認ムルニ至リ漸次
本國政府ヲ勸カサムトスルノ意嚮ヲ有スルモノノ如クナルヲ以テ
此形勢ヲ利導シ我方ノ主張ヲ貫徹スルコト得策ナリト思考セラル
以上ノ理由ニ依リ二分五厘附加稅ノ増徴ニ對シテハ其ノ實施ヲ遲
延セシムルカ如キ通商障礙除去ニ關スル事項ヲ條件トスルコトナ
ク成ルヘク之カ實施ヲ速カナラシムル意味ニテ寧ろ支那當面ノ擔
要タル其ノ財政上ノ局面開展ヲ援助スルト共ニ無擔保及擔保不確
實外債ノ整理及關稅保管銀行ノ二條件ニ重キヲ置キ其他ノ事項ニ
付テハ暫ク主義上ノ約束ニ止ムルコトト願シタシ

Faint, illegible text on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

甲斐ノ州ハ支那ノ現情ニ取テ實現殆ト不可能ナル條件ヲ付シタル
モノニテ粵府關稅條約第三條ノ精神ニ反シ且關稅特別會議ヲ開會
トシ經濟保及擔保不確實外債整理ヲ希望スル我國ニ取リ不得策ト

圖五

第二 支那關稅制度運用調整問題

海關執行制度ノ運用ニ付テハ海關官吏ノ接配及關稅保管銀行ノ業
務設備海關用銀等ニ付關會均等主義ニ基キ各國ノ對支貿易額及價
格等ヲ考慮シテ適當ノ調整ヲ行フヘキコト

第三 海關關稅額減率廢止問題

海關關稅額減率廢止ニ當リテハ右廢止カ各種統一等且同時ニ實施
セラルルコトヲ條件トシテ之ヲ實施スヘキコト

臨時編密台第七九一號

大正十三年九月三十日

臨時條約改正調査委員長

外務大臣男爵 幣 風 喜 重

第三及第十小委員會所長

富田 理 財 長



臨時條約改正調査委員長第三及第十小委員會

官報出催延期ノ件

九月二十七日所編臨時編密台第七七二號ヲ以テ來ル十月二日午後三時ヨリ臨時大臣官邸ニ於テ本件委員會開催可致旨及御通知置座奉令

敬請三小委員會江本委員長ノ御台ニ成リ進テ御通知致スマテ延相致
及候御石及御進知候也



臨時條約改正調査委員會第八〇八號

大正十三年十月六日

臨時條約改正調査委員會

川島部長



第三及第十小委員會委員
一分回 吉松省理 伏向 長 殿

關東州特高關稅法草案送付ノ件

今般關東州コリ領事ノ草案送付有之候處右ハ近ク開催セラルヘキ臨時條約改正調査委員會第三及第十兩小委員會合同ノ會議ニ於テ審議セラルヘキ事項ト緊密ノ關係有之候ニ付審議右ノ第一編及關稅付

別紙添付

關東州特惠關稅法草案

關東州特惠關稅法草案
第一條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第二條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第三條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第四條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第五條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第六條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第七條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第八條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第九條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定
第十條 本州境內之貨物
運往他州時
其稅率
依本法之規定

第一號 關東州特惠關稅法草案

第一案 原則主義

第一條 關東州内ニ於テ生産又ハ製造シタル物品ニハ輸入税ヲ免ス

第二條 關東州外ニ於テ生産シタル原料品ニ關東州内ニ於テ加工シ

タル物品ノ輸入税ハ原料品ノ税率ニ依ル

第三條 第一條ノ物品ハ所轄官署長ノ產地證明書ニ依リ第二條ノ物

品ハ所轄官署長ノ加工地證明書ニ依リ證明スルヲ要ス

產地證明書及加工地證明書ニ關スル規程ハ關東長官之ヲ定ム

附 則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二案 列舉主義

- 九 鳥獸肉加工品
- 八 豚肉
- 七 果實
- 六 蔬菜
- 五 豆類
- 四 穀類
- 三 玉蜀黍粉
- 二 小麥粉
- 一 鶏
- 見ス

一 關東州内ニ於テ生産又ハ製造シタル左ノ物品ニハ輸入税ナ

- 十 鹿 茸
- 十一 葶 類
- 十二 昆 麻 子 油
- 十三 大 豆 油
- 十四 ス チ ア リ ン
- 十五 オ レ イ ン
- 十六 石 鹼
- 十七 大 豆 硬 化 油
- 十八 甘 草 越 登 斯
- 十九 阿 膠
- 二十 ゼ ラ チ ン

二十一 フローム

二十二 奇性曹達

二十三 曹達灰

二十四 直炭假曹達

二十五 假曹達

二十六 鹽化加里

二十七 炭假マグネシウム

二十八 グリセリン

二十九 ナフタリン其ノ他ノコールタール分組物ヨリ製造シタル化

學的生成品

三十 炭假マグネシウム

三十一 酸化カルシウム

三十二 骨炭

三十三 燃料

三十四 毛織物

三十五 毛織物

三十六 野蜜其絲

三十七 野蜜細絲

三十八 野蜜粗絲

三十九 黄麻布

四十 毛織物

四十一 毛織物

四十二 毛又ハ毛織ト織トノ交織物

四十三 野置織物

四十四 野置織入織物

四十五 油布

四十六 ガンニ―

四十七 セメント

四十八 耐火煉瓦其ノ他マタチチヤイト及建築材料類

四十九 硝子板

五十 硝子線

五十一 硝子管

五十二 硝子器

五十三 鐵

第二條 關東州外ニ於テ生産シタル原料品ニ關東州内ニ於テ加工シタル左ノ物品ノ輸入税ハ原料品ノ税率ニ依ル

一 小麦粉

二 玉蜀黍粉

三 鐵粉

四 鳥獸肉加工品

第三條 第一條ノ物品ハ所轄官署長ノ産地證明書ニ依リニ條ノ物品ハ所轄官署長ノ加工地證明書ニ依リ證明スルヲ要ス
産地證明書及加工地證明書ニ關スル規程ハ關東長官之ヲ定ム

附 則

本館大正十四年四月一日ヨリ之ヲ發行ス

0000 1113

第二章 理由及説明書

食料品、工業原料品、建築材料、工業用資材用品、文化財
貴重材料等ノ目的出納ナルコトハ帝國ノ經濟的獨立ト發展トニ
關スル一大前途タリ然ルニ滿蒙ノ地タルヤ此等物品ノ生産額ハ
豊富ニ製造條件亦極ノテ有利ニシテ實ニ帝國存続ノ爲ニ必要ナ
ル資源地ナリ、故ニ該等資源ノ開發ニ對シ輸入税ヲ免却シテ
人ヲ容易ニシ其ノ産業ヲ促進セシムコトハ我國境上必要ノ措
置ナリト雖、條約上ニ於ケル最高關稅額ハ他國ニ其ノ利益ヲ均
等セシムルノ支障アリ、茲ヲ以テ滿蒙ノ資源ヲ有スル關東州ニ
本國產物法ヲ實施シ州内産業ノ振興ヲ促シ以テ帝國物産ノ發
達ヲ促フハ對下ノ急務ナリト謂ハサルヘカラス。尙前ノ如クテ

ルヲ以テ特惠ノ殊過ヲ受クヘキ物産ハ可及的廣キ範圍ニ及ホス
必要アリ。故ニ其ノ範圍ヲ列挙主義ニ依リ制限スルノ不利益ヲ避
ケテ原則主義ニ依ルモノヲ第一案トシタリ。乍併成種ノ物産ニ
付テハ内地物産保護ノ必要上原則主義ノ否認セラルルコトアル
ハキテ慮リ第二案トシテ列挙主義ニ依ルモノヲ提案セリ第二案
ニ於ケル免税品及減税品目排列ノ順序ハ、關稅定率法別表ノ順
序ニ依リタルモノニシテ、特惠ヲ必要トスル順位ヲ示スモノニ
非ス。特惠ヲ必要トスル物品ノ順位ハ第三號書ニ示シタリ。
草案第二條ニ規定シタル一關東州外ニ於テ生産シタル原料品ニ
關東州内ニ於テ加工シタル物品ノ輸入税ハ原料品ノ税率ニ依ル
トハ例ヘハ異種ノ小麦ヲ關東州内ニ於テ小麦粉ト爲シ之ヲ日本

ニ輸入シタル場合ハ、輸入品へ小麦粉ナルモ、小麦粉ノ税率毎
 百斤壹圓八拾五錢ニ依ラス、小麦ノ税率毎百斤七拾七錢ニ依リ
 輸入税ヲ課スルコトヲ意味ス。

本章第三條ニ於テ「產地證明書及加工地證明ニ關スル規程ハ關
 東長官之ヲ定ム」トシタルモ、本案ノ審議ニ付該規程ノ内容ヲ
 知ルノ必要アルヘキヲ以リ、產地證明書及加工地證明書規則ノ
 草案ヲ第四號書ニ示シタリ

左ニ關東州特恩關稅法第二案ニ列舉セル各免稅品及減稅品ニ付
 特恩ヲ必要トスル順位ニ從ヒ、輸入税ノ免除又ハ減額ヲ行フ必
 要アル所以ヲ説明スヘシ

大豆油、大豆硬化油、スチアリン、オレイン、グリセリン、

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

原料、油布、及良麻子油

大豆油ハ生産者二一〇、生産能力一日約九〇〇噸、生産年額
大正九年八三、七五七噸、大正十年一五三、五七七噸、大
正十一年九一、三八三噸ナリ。本生産業ハ滿洲特産物中メ
大類タル大豆ヲ原料トシ、絹工業中最も重要ナル地位ヲ占
メ其ノ盛衰ハ滿洲經濟上ニ至大ノ關係ヲ有ス。本品ハ食
料、燈火用、各種工業原料トシテ用キラレ、近年油脂工業
ノ進歩ニ伴ヒ、之ヲ原料トスル製品頗ル多シ。
従來歐米諸國ニ盛ニ輸出セラレタリシカ、最近米國等ニ於
テ綿種油多量ニ生産セララルニ至リタル爲輸出額數減シ目
下不振ノ状態ニ在リ。

日本内地ニ於テハ目下食料品トシテ最も多ク使用セラレツ
ツアルモ將來油脂工業ノ發達ニ伴ヒ原料油トシテノ需要益
増加スヘシ。故ニ其ノ輸入税ヲ免除シ、内地需要ニ對シ廉
價ナル供給ヲ爲スハ内地油脂工業ノ發達ヲ圖ル爲最モ必要
ナリ、加之本品ノ生産ハ大豆粕ノ生産ヲ伴フモノナルカ、
大豆粕ハ肥料トシテ内地ノ需要年々増加シ而モ本品ノ需要
之ニ伴ハサル爲、生産費ハ多ク大豆粕ニ轉嫁セラレ、其ノ
價格ヲ昂騰セシメツツアル状態ナルヲ以テ本品ノ輸入税ヲ
免除シテ其ノ需要ヲ増加セシメ、延テ大豆粕ノ價格ヲ下落
セシムルコトハ農業政策上極メテ重要ナリ

大豆硬化油ハ生産者ニ生産能力一日一〇〇〇〇斤、生産年額大
正十年ニニニニ〇斤大正十一年ニハ一〇一〇〇斤、大正十二年
ニニニニ一〇一〇斤ナリ。本生産者ハ四原州ニ於ケル最も重要ナ
ル油房工業ノ生産品ヲ原料トスルモノナレハ油房工業ト聯シ
其ノ發達ヲ阻ルヘキ頗ル重要ナル工業ナリ。爾チ本生産者ノ發達
ハ以下諸點生産ノ状態ニアル大豆油ヲ消化セシメ、油房工業ノ
原料ヲ來タス所以ナリ。本品ハ、石鹼、人糞バク、食料原料ト
シテ用キラレ、日本内地ニ於テハ此等原料ニ乏シキヲ以テ本品
ト品質、用途同様ナル牛脂ヲ年々多額ニ輸入シツツアリ。而シ
テ牛脂ハ既ニ世界ノ生産其ノ需要ニ伴ハス、價格年々騰貴ノ所
向ニ在シハ其ノ代用品トシテ價格低廉ニシテ生産豊富ナル本品

ノ使用ヲ促進スルコトハ、内地産業ノ發達ノ爲頗ル有利ナリ。
 然ルニ牛脂ハ無税ナルニ拘ラス、本品ニハ從價二割ノ輸入税ヲ
 課シ、本品ノ輸入ヲ困難ナラシメ、生産業者ヲシテ製品ノ販路
 ニ窮セシメツツアリ、故ニ其ノ輸入税ヲ免除シテ其ノ輸入ヲ容
 易ナラシムルコトハ、内地ニ於ケル石鹼、人造バタ、塗料等ノ
 製造業ヲ發達セシムル爲、又内地農業ニ重大ノ關係アル油房工
 業ヲ振興セシムル爲、極メテ緊要ノコトニ屬ス
 ステアリン、オレイン及ブリセリンハ、大豆油ヲ原料トシ、大
 豆硬化油ト共ニ容易ニ之ヲ製造スルコトヲ得ルヲ以テ本産業ハ
 大豆硬化油ノ生産ト相俟チ、大豆油消化策トシテ發達セシムル
 必要アリ、故ニ從來農産大豆硬化油生産額甚ニ於テ本品ノ製造ヲ

試ミタルモ、日本ニ輸入スルニ高率ナル關稅ヲ存スル爲ニ收支
 相償ハス。目下製造ヲ中止セリ而シテ内地ニ於テハ原料品高價
 ノ爲本品ヲ有利ニ製造スルニト能ハス外國ヨリ多額ノ輸入ヲナ
 シツツアリ、故ニ其ノ輸入稅ヲ免除シテ輸入ヲ容易ナラシメ、
 依リテ以テ本品製産業ヲ發達セシメ、關東州ト内地ト相俟テ本
 品ノ自給自足ヲ圖ルノ必要アリ。

塗料及油布ノ大豆油ヲ原料トスレハ本品ノ製造ハ本州ニ於テ有
 望ナル事業ニシテ又内地ニ於ケル本品ノ需要ハ甚タ多キヲ以テ
 關稅ヲ免除スルヲ至當ス

蓖麻子油ハ醫藥用、工業用及軍用トシテ需要尠カラス。而シテ
 本州ニ於テハ之カ製造原料ノ供給頗ル調裕ナリ、然ルニ關稅ノ

障壁ハ之カ製造ヲ停止セリ。故ニ輸入税ヲ免除シテ之カ製造
促進シ。内地ノ需要ヲ満足ニ且確實ニ供給セシムルノ必要アリ

（Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns, typical of traditional Japanese writing style.)

二 曹達灰、苛性曹達、重炭酸曹達及鹽化カルシウム。

曹達灰ハ石炭製造、鐵煉工業、染色工業、製革工業、製紙工業
硝子工業其ノ包裏多工業ニ必須ノ原料品ニシテ尙鐵類ヲ用フル
工業ニ於テ中和材料トシテ用ケラレ又他ノ曹達鹽類ヲ製造スル
基本トシテ用ケラル其消費量ハ一國ノ工業ノ盛衰ヲ計ル「ノ」
「ル」トセラレ其ノ價格ノ如何ハ直ニ一國工業ノ盛衰ヲ表タス
此ニ世界ノ強國ハ皆之カ自給自足ヲ圖リ工業ノ基礎ヲ鞏固ナラ
シメントシツツアリ、然ルニ日本ニ於テハ「要領」殆ント全
ク外國ニ仰キ而モ「ブランド」、モンドル會社ノ獨占ニ委スル
ノ狀態ニ在ルモ獨占ハ價格ノ高騰ヲ促シ價格ノ高騰ハ工業ノ發
達ヲ阻害シ一國有事ニ臨シテハ工業ヲ廢滅セシメサルヘカラス

サロハ我國曾遊其ノ自給自足ヲ圖ルコトハ最モ要ニシテ
 スルルニ内通ニ於テハ主トシテ主要原料タル食糧ガ高價ナル爲
 廉價ニ之ヲ買入スルコト願ハサル狀ニ在リ然ルニ自給自足ニ
 ナルハ之カ要因條件ヘ一ブランナー、モンデー會社ヨリ等口有
 ナリ而テ穀類原料中食糧ハ精々高價ナルモノ石灰石、石膏、コ
 ーラ、硫酸、アンモニア等ハ悉ク廉價ニシテ輸入ニ於テは大ノ
 利益アリ故ニ自給自足ニ當テはストキハ其ノ利益ハ自由
 輸入ニ要スルモノブランナー、モンデー會社會社ノ輸入ヲ阻止シ
 得ヘキ理ナルモノ日本ハ一ブランナー、モンデー會社ノ利益
 ナル旨ヲナシハ自給自足ハ不食自足ヲ爲シナラズ州等ニ於テ
 スヘキニト明瞭ナルヲ以テ同定州會社ニ對シテ輸入ノ禁止ヲ

(The right page is mostly blank with some faint markings and a small handwritten note near the binding.)

茲ヲ與フルニ非サンハ本州ノ官達工業ノ發達ヲ期シ難シサレハ
 國稅ノ免除ニ依リ製造ヲ促進シ、依リテ以テ内地ト相俟テ、
 灰ノ自給自足ノ目的ヲ達成スルニト極メテ緊要ナリ曠者政府ニ
 於テ食鹽ヲ百斤ニ付四十錢位ニ販賣シ、内地ニ於ケル官達工業
 ノ發達ヲ助長セムトスルノ議アリト聞ク、果シテ然ラハ内地ニ
 於テ需要スル曹達灰鹽類ヲ製造スルニハ食鹽二十萬噸以上ヲ要
 スルヲ以テ其ノ食鹽ヲ販賣スルトキハ專賣局ノ損失ハ二百萬圓
 以上ニ達シサナキタニ高價ナル内地食鹽價ノ價格ヲ更ニ引上ケ
 サルヘカラサル結果ヲ生スヘシ。而シテ百斤四十錢ノ鹽價ハ內
 國京州鹽價價ノ二倍以上「ブランナー」モンドー會社使用鹽價
 ノ一數倍ニ相當セリ、加之食鹽以外ノ原料品モ鹽價ノ京州ヨリ



高敷ナリ若シ食糧ノ産實ニ依リテ内地普通工業設備擴張セラル
ルコトアラハ現今内地ニ農田ノ存スルコトカ産價ナル租賦増額
輸入ノ大支障トナルト同様ノ商運ヲ更ニ普通運賃ニ就キ船運
スニ至ルヘシ。マシハ各埠ノ産物不利ナル内地普通工業ニ對シ
不自然ナル保護政策ヲ採ルヨリモ寧ロ商税ノ特恵ニ依リ生産費
件ノ最も有利ナル關東州ニ同工業ヲ起スノ便宜ヲ促進シ同工業
ヲ助長シ内地關東州和使テ工業ノ蕃盛ヲ空圖ナラシムルノ方策
ヲ採ルテ至當トス

奇性普通ハ電氣分解法ニ依リ内地ニ於テ相當額ヲ製造シツツマ
ヨク、自費費率額ノ一半ハ外國ヨリ輸入シツツアリ、而シテ電氣
分解ニ依ル電氣費率ノ幾許ハ同産物タル諸業及水産ノ製造ノ事

スル限度ニ制限セラルヘキモノナレハ將來ニ在リテモ同法ニ依
リテ内地需要ノ全部ヲ製造スルコト不可能ナリ故ニ不足分ハ關
東州ニ於テ官廳及テ原料トシテ製造シ同品ヲ以テ之ヲ補充スル
コトト爲スヲ設モ適當トスサレハ本品ニ對スル輸入税ヲ免除シ
テ供給ヲ容易ナラシメ以テ各種工業ニ必須ナル原料製造ノ價格
ヲ低廉ナラシムルノ必要アリ
且長官官達ハ實地ニ共ニ之ヲ製造スルヲ最も有利トシ體化力
ルシユウムハ實地製造ニ伴フ副産物ナレハ是等ニ對シテモ特
入税ヲ免除スルヲ至當トス

且有事ニ至望セハ供給全ク杜絶スルノ虞アリ、實ニ日本工業ノ
 發達ヲ妨クル主要ナル原因ハ、鐵類ノ不足ト其ノ高價トニ存セ
 リ、故ニ關東州産鐵類ノ輸入税ヲ免除シ、比較的近キ帝國ノ
 鐵土ニ製鐵廠ヲ發達セシメ、以テ内地滿州相俟テ鐵類自給自足
 ノ目的ヲ達成シ、價格ノ低下ト供給ノ確實トヲ招來シ、以テ本
 邦工業ノ發達ヲ促進スルハ急務ニ屬ス。

四 硝子板、硝子棒、硝子管及硝子器、

硝子板、硝子棒、硝子管及硝子器ハ生産者一、生産額亦一日コ
 ヅブ換算一ミロ〇〇個、生産年額大正十年ハ四一ニル〇個、大
 正十一年ハ一ハルセニ個大正十二年ハ一四一ニル〇個ナリ。關
 東州ニハ豊富ニシテ良質ナル硝子原料存スルニ以テ、數年來硝

子ノ製造ヲ試験シ、既ニ歐米ノ優秀品ニ選ラサル製品ヲ見ルニ至リ、今ヤ大規模ノ工場設立ノ準備中ナリ。日本内地ニ於テハ良質ノ硝子原料ニ乏シキ爲、優秀ナル硝子器、硝子板、工業上必須ナル特殊硬質硝子等ハ今日之ヲ製造スルコト能ハサルヲ以テ、歐米ヨリ之ヲ輸入シツツアリ。故ニ關東州ニ於ケル此等製品ニ對シ輸入税ヲ免除シ廉價ヲ以テ内地ノ需要ニ應シ、内地關東州相俟テ本品ノ自給自足ヲ促進スルコト緊要ナリ。

五、耐火煉瓦。其ノ生産マダキヤイト製造材料

耐火煉瓦、其ノ生産マダキヤイト製造材料ハ、生産者ト生産地
 力増進年ニ〇〇〇〇〇〇個、其ノ生産額ハ、生産年毎五
 大正十年一〇〇〇〇〇〇個、大正十一年一〇〇〇〇〇〇個大正十二
 年一〇〇〇〇〇〇〇個、其ノ生産額ハ、大正十一年ハ
 一〇〇〇〇〇〇〇、大正十二年ハ一〇〇〇〇〇〇ナリ。諸國ハマダキヤイト
 製造地ト製造地ト同フヘク、一ニ大石製造地一ニ五ル
 ハ品質阻ル他長、製造者ト製造地ナリ。故ニ之ヲ原料トシ耐火煉
 瓦其ノ生産材料ヲ製造スル本工場ハ阻ル有量ナリ。日本内
 地ニ於テハ製造、製造者ノ製造ニ耐火煉瓦ノ製造地シヤモマダ
 キヤイト製造地トナル以下マイトラ以テ之ヲ代用シド以下マイ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

トモ亦缺乏シテ滿洲ヨリ之カ供給ヲ受ケツツアリ、其ノ他大建
 築ノ増加ニ伴ヒ耐火性建築材料ノ需要益々多キモ之ヲ自給スル
 コト能ハサル状態ニ在リ。故ニ本品ニ對スル輸入税ヲ免除シテ
 關東州ニ於ケル本品製造業ノ發達ヲ促進シ、廉價ヲ以テ内地ニ
 供給セシムルコト緊要ナリ。

六、毛織糸、毛織線糸、毛織物、毛織交織物及毛又ハ毛織ト稱ト
 ノ交織物。

奉天ニ生産能力年毛布ニハ〇〇〇〇〇碼織紗ニハ〇〇〇〇碼セル
 ニ〇〇〇〇〇碼計ハ〇〇〇〇〇〇碼ノ毛織物生産者アリシカ通
 般火災ニ罹リ、工場全部ヲ焼失セリ。滿洲ニ於テハ古來綿羊ノ
 飼育盛ニシテ、羊毛ノ産額多ク、其ノ品質ハ現今ニ於テハ組織

ナルモ山羊品類ノ改良ヲ行ヒツツアレハ爾次ニ優良トナルヘシ。
 日本内地ニ於テハ羊毛ヲ産セス、爾テ羊毛工服製造セス、爾次
 爾ノ大部分ヲ英米等ヨリ輸入シツツアレハ自給率天ニ於ケル毛
 織工業ハ滿洲ニ於ケル豊富ナル羊毛ヲ原料トシ、日本内地ニ
 於ケル毛織糸及毛織物供給ノ基礎ヲ確立スル總目ヲ以テ確立セ
 ラレケルモノナリ。然レトモ高率ナル輸入依存スル爲多量ノ異
 品ヲ内地ニ輸入スルコト能ハス。サレハ今同ノ火災ニ關シ右等
 毛工織ヲ關東州ニ移サシムルト共ニ關東見附ノ特産ヲ興ヘテ異
 品ノ内地輸入ヲ容易ナラシメ以テ新産ノ發達ヲ助長シ内地毛織
 糸及毛織物等供給ノ基礎ヲ確立スルヲ至當トス。

野蠶真絲、野蠶紡績、絹織絲、野蠶絹絲、野蠶絹織物及野蠶絲
入織物、

滿洲ニ於ケル野蠶ハ大豆ニ次ク特産物ニシテ其ノ製絲業ハ近來
著シク進歩ヲ遂ケタリ。野蠶製絲ニハ製絲以上ノ屑絲ヲ生ス。
野蠶真絲、野蠶紡績絹織絲及野蠶絹絲ハ其屑絲ヲ原料トシテ製
造スルモノナレハ其ノ製造業ハ關東州ニ於テハ頗ル有望ニシテ
同業ノ發達ハ延テ野蠶製絲業ノ發達ヲ促進スヘシ。本品ハ織物
工業ノ必要原料ナルモ日本内地ニ於テハ之ヲ産スルコト尠シ。
故ニ本品ノ輸入税ヲ免除スル必要アリ。

野蠶絲織物及野蠶絲入織物ノ製造ハ本州ニ於テハ原料ノ供給調
擇ニテ頗ル有望ナル事業ニ屬スルヲ以テ從來邦人ニ依リ層々製

造ヲ試ミラレタルモ地方的需要ニ乏シク内地需入ニハ高率ナル
 關稅ヲ課セラルル爲常ニ失 敗ニ終リタリ。關東州ハ帝國ノ準
 領土ナレハ本品ノ輸入稅ヲ免除シ本製造業ヲ發達セシムルヲ妥
 當トス

ハ革類

滿蒙ニ於ケル皮類ノ産額ハ巨額ニ上リ。年々市場ニ出廻ルモノ
 牛皮四十萬枚、馬皮及驢皮三十三萬枚、羊皮三十五萬枚アリ。
 獸皮ハ産額頗ル多キモ主トシテ地方的需要ニ供セラレ此類巨額ノ皮類ハ
 現今主トシテ天津ヲ經テ歐米ニ輸出セラレ製革ノ原料ニ供セラ
 ル右ノ如キ状態ナレハ關東州ニ於ケル製革工業ハ頗ル有望ナリ
 日本内地ニ於テハ革類ノ需要ニ對シ供給甚々不足セルモ原料ノ

關係上増産ヲ圖ルコト難ク、多額ヲ外國ヨリ輸入シワフアリ。
各種工業上製革ノ用途ハ益々擴張セラレ、又兵器或ハ馬具トシ
テ本品ヲ要スルコト多カラサレハ之レカ供給ヲ帝國ノ勢力圏内
ニ確保シ置クコトハ産業上並國防上極メテ重要ナリ。故ニ本品
ノ輸入税ヲ免除シ内地ニ對スル供給ヲ容易ナラシメ以テ如上ノ
必要ニ應メシメサルヘカラス。

小麦粉、玉蜀黍粉、雑穀及豆類。

小麦粉、玉蜀黍粉、雑穀及豆類ハ河レモ豊富ナル滿洲産小麦

玉蜀黍、雜豆ヲ原料トシ其ノ生産額ル有量ナリ。而シテ目下、

小麦粉ハ生産者ニ生産能力年ニマ〇〇〇〇〇〇斤。雑穀ハ生産

者ニ生産能力年ニハ〇〇〇〇〇〇斤、豆類ハ大規模ノ生産者ニ

生産能力ニ三〇〇〇〇〇〇斤、小規模ノ生産者ニ一〇〇〇〇〇〇斤

セテ五〇〇〇〇〇〇〇斤ナリ。日本内地ニ於テハ小麦粉、玉蜀黍

粉及雑穀ハ需要額ル多キモ供給之ニ件ハス。米類等ヨリ多量ヲ

輸入シツツアリ、豆類ハ大豆ノ副産物又ハ片栗粉、綿苧粉ノ

代用トシ又菓子原料トシテ用キラレ、麵ル邦人ノ嗜好ニ適セル

モノニ長テハ製菓ノ原料トシテ製造スルコトヲ好ム。

關東州内ニ於ケル小麥粉ノ生産ハ大部分奥地ノ原料小麥ヲ用キ
玉蜀黍粉及澱粉ノ生産モ漸次擴張スルニ從ヒ、奥地原料
玉蜀黍ヲ用フニ至ルヘシ。故ニ小麥粉、玉蜀黍粉及澱粉ニ付
テハ、州内ノ原料ヲ用フルモノニハ輸入税ヲ免除シ、州外ノ原
料ヲ用フルモノハ原料小麥又ハ玉蜀黍ノ税率ニ依リ輸入税ヲ課
シ豆类類ニ付テハ凡テ輸入税ヲ免除シ廉價ヲ以テ内地ニ供給セ
シムルト同時ニ、本州ニ於ケル此等製造業ノ發達ヲ促進スルノ
必要アリ。

十、豚肉、鶏及鵝卵

關東州内ニ於ケル大正十二年末迄ノ飼養數ハ、在來種四〇八六
六頭、洋種八九七頭、改良種種五〇九二頭計九三九五頭、

鶏飼養數ハ雄ニ〇、雌ニ五ニ羽、雄ハモロニ一羽、計ニハ六ニセ
ニ羽ニシテ農家一戸ニ養數二頭、鶏ハ羽ノ割合ナリ。品種ハ豚
ニ付テハ明治四十四年以來バークシヤ種豚ヲ配付シ、近年改良
ノ實績顯著ナリ。鶏ニ付テハ近ク品種試験ヲ行ヒ、優良種ヲ以
テ改良ヲ爲サムトス。本州ニ於ケル農産物收獲ノ盛ニハ粟及ナ
ル飼料殘留シ、農産物ノ加工ニ因リ生スル副産物ハ家畜ノ飼料
ニ適スルヲ以テ赤番珠ニ豚飼ノ飼料ニ適セリ、故ニ関東諸ハ風
ニ豚飼ノ飼料ヲ奨励シ、本州ヲシテ東洋ニ於ケル丁排タラシム
コトヲ期待シツツアリ。日本内地ニ於テハ豚肉、鶏及鶏卵ノ供
給ハ需要ニ件ハサル現状ニシテ常に價格ノ暴騰ヲ告グルモ、
入税ノ障礙アル爲本州産品ノ輸入ヲ阻止シツツアリ。故ニ豚肉

鶏及鴨卵ノ輸入税ヲ免除シテ豊富低廉ナル本州産品ノ輸入ヲ促
 進シ、依リテ以テ内地ニ於ケル此等肉類ノ價格ヲ低廉ナラシメ
 一面本州ニ於ケル新産ヲ益々發達セシムルハ刻下ノ食糧政策上
 ヲリ見ルモ緊要ノコトナリ

十、鳥獸肉加工品

消費ニ於ケル食用鳥獸ノ飼養數ハ鶏一五〇〇〇〇〇羽、牛一
 五〇〇〇〇〇頭、豚一五〇〇〇〇〇頭、羊一〇〇〇〇〇〇頭ナリ
 故ニ家畜タニ開クルニ於テハ此等食用鳥獸肉加工工業ハ本州ニ
 勃興スヘキ理ナリ。ソーセイジ、ハム及ベーコンニ付テハ現在
 州内ニ一箇ノ製造場アリ、日本内地ニ於テハ肉類ノ缺乏甚シク
 常ニ肉價昂騰シツツアル状態ナレハ本加工品ニ對シテハ州内原

料肉ヲ用ウルモノニハ輸入税ヲ免除シ州外原料肉ヲ用ウルモノ
 ニハ原料肉ノ税率ニ依リ輸入税ヲ課スルコトトシテ本加工品ノ
 輸入ヲ促進シ、廉價ヲ以テ内地ニ供給セシムルコトトシ、本州
 ニ於ケル畜産子改良セシムルコトハマタ食糧政策ノ一ト云ハ
 サルヘカラス

十二、桑實及繭桑

桑實及繭桑ハ本州ノ風土ニ適合セル作物ナリ。既往ニ於ケル桑
實及繭桑栽培ノ成績ニ徴スルニ、收獲高率品質優良ニシテ他ノ
作物ニ比シ收益途ニ多ク、病害蟲ハ甚メテ少シ、例ヘハザラ果ノ
如キモ多少腐爛病其ノ他ノ病害ヲ蒙ルコトアルモ、未タ總量ノ
發生ヲ見ス。近來桑實栽培業ノ栽培者著ク勃興シ、作付反裏年
々増ニ於テハ舊額ニ一ハニ六〇斤、加シツツアリ生熟ハ大止十二年 統ニニ九一四九斤、オキム

〇ニ七九ニ六斤、梨八八四八九〇斤、櫻桃一〇九一四斤、桃四
六六一四七斤、計ニ九二ニ三八六斤、栗實ニ六ニ五八七四九斤
蜜柿七〇五ニ二六斤、蒲子ニ四ニ五八七六斤、牛蒡一ニ六ニ六
〇斤、白菜一七八八八七九四斤、韭菜八九二一一斤、蒜頭ニ八

ニハハクハ一斤、甜瓜

ニ四一斤、甜瓜ニ六四七六一斤、西瓜四八七九五斤、南
 瓜ニ五九四二斤、甘藷九七四六五斤、馬鈴薯ニ四八三
 七一斤、燕四ニ八〇〇斤、胡蘿蔔ニ八五〇斤、其ノ他ニ〇六
 五九七六斤、計セニ五四一五八八斤ナルモ、加速度ヲ以テ増加
 シツツアリ。何レモ邦人ノ嗜好ニ適シ價格亦低廉ナルモ、現今關
 稅障礙ノ爲多ク内地ニ輸入スルコト能ハサル状態ニ在リ。故ニ
 本品ノ輸入稅ヲ免除シ内地ニ廉價ナル供給ヲ爲スト共ニ本州ニ
 於ケル斯業ノ發達ヲ助長スルノ必要アリ

十三、ガンニニ及黃麻布

ガンニニ業ハ生産者一、生産年額ニ一〇〇〇〇〇〇倍ナリ。本品
 ハ印度、南洋方面ヨリ輸入スルジユイトト滿洲産青麻トテ原料

十四、石炭。

トシ、滿洲特産物及セメントノ包装トシテ需要旺盛ナレハ本品製造ハ頗ル有望ナル事業ナリ。黄麻布ハガンニ、絞ニ附屬シテ製造セラレ即チ原料ヲ精選シ、良質ノ部分ヲ以テ黄麻布ヲ製造シ、其ノ他ノ部分ヲ以テガンニニ絞ラ製造スルナリ。日本内地ニ於テハガンニニ絞ラハセメント包装用トシ、黄麻布ハ羽二重其ノ他種物ノ包装用トシテ使用セラレ、需要頗ル多クモ供給之ニ伴ハス故ニ此等物品ノ輸入税ヲ免除シ内地ニ廉價ナル供給ヲ爲スト共ニ本州ニ於ケル所産ノ發達ヲ助長スルノ必要アリ。

石炭ノ製造ハ關東州ニ於テハ主要原料タル油脂ノ供給調劑ニシテ、他ノ原料タル曹達灰又ハ苛性曹達モ早晚製造セララルニ至

ルヘケレハ頗ル有量ナル事業ナリ。生産者既ニ三アリ。本品ハ
屬長生上ノ必需品ナレハ輸入税ヲ免除シ内地ニ對シ低廉ニ供
給セシムルト同時ニ本州ニ於ケル事業ノ發達ヲ助長スルヲ至當
トス。

十五・甘草越幾期。

甘草越幾期ハ潤澤ナル蒙古産甘草ヲ原料トシテ製造スルモノナ
レハ本品ノ製造ハ關東州ニ於テハ有量ナル事業ノ一ナリ。日本
内地ニ在リテハ本品ノ需要甚々多モ之ヲ産セス。故ニ本品ニ對
シテハ輸入税ヲ免除スルヲ至當トス。

十六、ナフタリン、其ノ他コールタール分留物ヨリ誘導シタル化
學的生成品

ナフタリンハ既ニ般面シツツアリ其ノ他コールタール分留物ヨ
リ誘導シタル化學的生成品モ漸次産出スヘキ國産ニアリ此等化
學的生成品ハ日本内地ニ於テ需要多キモ國産高率ニシテ内地ニ
輸入スルコト困難ナル狀態ニ在リ

十七、骨炭、阿膠及ゼラチン

東州ニ捕鯨船隊骨ヲ原料トシ骨粉ヲ製造スル者一アリ其ノ副
産トシテ骨炭、阿膠及ゼラチンヲ製造セリ生産能力一日骨炭
二噸、阿膠半噸、ゼラチン半噸ナリ日本内地ニ於テハ此等原料
ヲ有利ニ製造スルコト能ハス多ク外國ヨリ輸入シツツアリ故ニ

本品ノ輸入税ヲ免除シテ内地ニ對シ廉價ニ供給セシムルト同時
ニ本州ニ於ケル新藥ノ發達ヲ促進スルノ必要アリ

十八、ブローム鹽化加里、硫酸マグネシウム、炭酸マグネシウム
及硫酸重鹽

本品ハ本州ニ於ケル製鹽ヨリ生スル母液ヨリ多量ニ之ヲ製造ス
ルコトヲ得日本内地ニ於テハ需要多キモ有利ニ之ヲ製造スルコ
ト困難ナレハ本品ノ輸入税ヲ免除シ内地ニ對シ廉價ナル供給ヲ
容易ニシ本州ニ於ケル道利ヲ開發セシムルヲ至當トス

十九、セメント

セメントハ生産者一、生産能力年々〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、生産年額大
正十年ニニミ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、大正十一年ニニ九〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇大正十二年

〇ルハ〇〇〇〇〇〇〇〇ナリ本品ハ本州ニ於テハ原料殆ント無産ナレ
 ハ必要ニ應シ何程ニテモ製造スルコトヲ得日本内地ニ於テハ都
 市ノ大進歩増加スルニ伴ヒ其ノ需要増加シ特ニ昨年ノ暴莫ニ因
 リ益々需要ハ急増シ内地ノ生産力ノミテ以テシテハ之カ需要ニ
 應スルヲ得サル状況ニ在リ故ニ本品ノ輸入税ヲ免納シ内地不足
 額ノ補充ヲ容易ナラシムルヲ至當トス
 前述ノ如ク關東州内ニ於テ生産又ハ製造スル物品ニハ凡テ關稅ヲ免
 除スヘキ理由アリ或ハ關東州ハ自由區域ナルカ故ニ關東州ニ於ケル
 生産業者ハ日本内地ヨリモ廉價ニ輸入原料品ヲ使用スルコトヲ得ル
 カ爲内地ニ比シ有利ナル地位ニ在ルノ理由ヲ以テ關稅ノ特惠ヲ與フ
 ルコトヲ請願スルモノアラムモ其ノ理由ハ草案第二條「關東州外ニ

於テ生産シタル原料品ニ關東州内ニ於テ加工シタル物品ノ輸入額ハ
原料品ノ輸入額ニ依ルルノ規定ニ依リ削減スヘシ英國ニ於テハ輸出額ヲ

(1) *Raw Materials*, (2) *Manufactures*, (3) *Home Products*.

(4) *Colonial Goods*.

四種ニ區別セリ *Raw Materials* ハ英本國ノ工業者ヲ保護スル爲ニ
課税シ税率ハ從價三分ノ一ニシテ植民地 (*Colonies*) ノ物品ニハ課税
ヲ免除セリ本税カ真正ノ課税ニシテ其他ノ三邊ハ各特種ノ目的ヲ有
スルモノナリ即チ *Home Products* ハ爲替ノ關係ニ依リ又ハ *Colonial Goods*

ノ目的ヲ以テ不富ナル程度ニテ商品カ輸入セラルル時在ニ課税シ税

率ハ從價三分ノ一ナリ

Home Products

ハ當該品ニ課税シ税

率ハ從價三分ノ一ニシテ植民地ノ物品ニハ三分ノ一ノ特恵ヲ與フ

Handwritten notes in the center gutter, including the number '116'.

Handwritten notes in the center gutter, including the number '117'.

年ニ輸入ノ日銀ヲ以テ自給トシ、
 年ハ
 莫得半ニシテ各品目毎ニ定メ殖民地ノ輸品ニハ原價ト
 申テ六分ノ一ノ特惠ヲ與ヘ酒類ニ付テハ少額酒ニ付テハ百分ノ三十
 乃至五十ノ特惠ヲ與フ因チ英貨ニ於テハ真正ノ關稅ハ殖民地ノ輸品
 ニハ凡テ之ヲ免除セリ蓋シ關稅ノ特惠ニ依リ殖民地ノ産業ヲ發達セ
 シメ殖民地ノ輸品ニ依リテ本國ノ不足ヲ補充セムトスルニ在ルナリ
 故ハ英國ノ殖民地ハ

Population ニシテ東州ハ
 取致ヲ爲スコト能ハスト謂フモノアラムモ英國ノ印度、洋洲、南
 亞等ニ對スル關係ハ決シテ日本ノ東州ニ對スル關係ヨリ以上ニ密
 切ナルモノニ非ス最惠國條款ニ賦關スルヤ否ヤハ法律問題ナルモ特
 實ノ有無ヲ互ニ補充スルコトハ事實問題ナリ東州ニ對シ關稅ノ特
 惠ヲ與フルコトカ條約上支障ナキ以上ハ關東州ハ事實上帝國ノ存立

莫得半ニシテ各品目毎ニ定メ殖民地ノ輸品ニハ原價ト
 申テ六分ノ一ノ特惠ヲ與ヘ酒類ニ付テハ少額酒ニ付テハ百分ノ三十
 乃至五十ノ特惠ヲ與フ因チ英貨ニ於テハ真正ノ關稅ハ殖民地ノ輸品
 ニハ凡テ之ヲ免除セリ蓋シ關稅ノ特惠ニ依リ殖民地ノ産業ヲ發達セ
 シメ殖民地ノ輸品ニ依リテ本國ノ不足ヲ補充セムトスルニ在ルナリ
 故ハ英國ノ殖民地ハ

二最モ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ其ノ特惠ハ英國ノ例ニ倣ヒ願
 ナルモノト爲スヲ主當トス即チ草案第一案原則主義ニ依ルヲ主當ト
 ス

第三號 關稅ヲ免除又ハ輕減スル必要アル物品ノ順位

一 大豆油、大豆硬化油、ステアリン、オレイン、グリセリン、塗料
油布、及蓖麻子油

二 曹達灰、苛性曹達、重炭酸曹達及鹽化カルシウム

三 鐵

四 硝子板、硝子棒、硝子管及硝子器

五 耐火煉瓦、其ノ他マグネサイト製建築材料

六 毛織絲、毛綿織絲、毛織物、毛綿交織物及毛又ハ毛綿ト混トノ交

織物

七 野蠶真綿、野蠶紡績織絲、野蠶絹絲、野蠶絲織物及野蠶絲入織物

八 羊毛類

九 小麦粉、玉蜀黍粉、澱粉及豆素類

十 豚肉、鶏及鶏卵

十一 鳥獸肉加工品

十二 果實及蔬菜

十三 ガンニール糖及黄麻布

十四 石鹼

十五 甘草糖漿類

十六 ナフタリン、其他コールタール分留物ヨリ誘導シタル化學的生

成品

十七 骨炭、阿膠及ゼラチン

十八 プローム、鹽化加里、硫酸マグネシウム、炭酸マグネシウム及

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word "製造" (Manufacture) and other illegible characters.

十
九
八
七
六
五
四
三
二
一

備
録

0000 1154

第四號、産地證書及加工地証明書規則草案

第一條 關東州特惠關稅法第三條ニ依ル産地證書及加工地証明書

ハ民政署長又ハ民政支署長之ヲ發給ス

前項ノ証明書ハ附錄様式ニ依ル

第二條 産地証明書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄

民政署長又ハ民政支署長ニ願出ツヘシ

一、品名

二、數量

三、價額

四、生産地又ハ製造地

五、荷造ノ記號

六、仕向地
七、製造地

第三條 加工地説明書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所

轄長官長又ハ民政支署長ニ提出スヘシ

一、原料品ノ品名、数量、價額及生産地

二、加工品ノ品名、数量、價額及加工地

三、荷造ノ記載

四、仕向地

五、製造地

第四條 産地説明書及加工地説明書ノ有効期間ハ下付ノ日ヨリ起算

シ六十日トス

前項ノ期間ヲ経過シタル産地證明書又ハ加工地證明書ハ之ヲ下付
シタル當該官署ニ返納スヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若
クハ科料ニ處ス其ノ發給ニ係ル證明書ハ之ヲ沒收ス

一 第二條又ハ第三條各號ノ事項ヲ詐稱シ其ノ他詐欺ノ手段ヲ以テ
證明書ノ下付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者

二 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者

附 則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(附錄様式) (略)

外務省 陸軍省 海軍省 逓信省 文部省 農商務省 司法省 内務省 大藏省 文書

大正十三年十月十五日

臨時陸軍修正軍令委員會
外務大臣 陸軍大臣 海軍大臣 逓信大臣 文部大臣 農商務大臣 司法大臣 内務大臣 大藏大臣

第三及第十委員會委員
逓信大臣 逓信局長 逓信局長 逓信局長



臨時陸軍修正軍令委員會第三及第十委員會
委員會會議即作方通知ノ件

九月三十日附錄臨時軍令第七九一號ヲ以テ本件委員會即作方通知
逓信局長及逓信局長逓信局長ル十月二十日（月曜日）午後三時五十分
逓信大臣官舎ニ於テ右小委員會即作方通知ノ件
逓信局長及逓信局長逓信局長